

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2002年10月31日
Date of Application:

出願番号 特願2002-318077
Application Number:

[ST. 10/C] : [JP2002-318077]

出願人 富士写真フィルム株式会社
Applicant(s): 富士ゼロックス株式会社

2003年8月18日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫

【書類名】

特許願

【整理番号】

FF166-02P

【提出日】

平成14年10月31日

【あて先】

特許庁長官 殿

【国際特許分類】

G03G 7/00

【発明者】**【住所又は居所】** 静岡県富士宮市大中里200番地 富士写真フィルム株式会社内**【氏名】** 中村 善貞**【発明者】****【住所又は居所】** 静岡県足柄上郡中井町境430番地 グリーンテクなかい 富士ゼロックス株式会社内**【氏名】** 野上 豊**【発明者】****【住所又は居所】** 静岡県足柄上郡中井町境430番地 グリーンテクなかい 富士ゼロックス株式会社内**【氏名】** 大木 靖**【特許出願人】****【識別番号】** 000005201**【氏名又は名称】** 富士写真フィルム株式会社**【特許出願人】****【識別番号】** 000005496**【氏名又は名称】** 富士ゼロックス株式会社**【代理人】****【識別番号】** 100107515**【弁理士】****【氏名又は名称】** 廣田 浩一**【電話番号】** 03-5304-1471

【選任した代理人】

【識別番号】 100107733

【弁理士】

【氏名又は名称】 流 良広

【電話番号】 03-5304-1471

【選任した代理人】

【識別番号】 100115347

【弁理士】

【氏名又は名称】 松田 奈緒子

【電話番号】 06-6840-5527

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 124292

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 電子写真装置クリーニング方法及びそれに用いる電子写真画像形成装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 電子写真用受像シートにトナーを定着処理する加熱加圧手段を備えた電子写真画像形成装置を用いる電子写真装置クリーニング方法において、前記電子写真用受像シートが、支持体上に熱可塑性樹脂を含有するトナー受像層を有すると共に、該電子写真用受像シートの通紙方向の長さ（L1）が、前記加熱加圧手段である定着ローラの周長（L2）又は定着ベルトの周長（L3）に比べて長い電子写真用受像シートをクリーニングシートとして用いることを特徴とする電子写真装置クリーニング方法。

【請求項 2】 前記クリーニングシートの通紙方向長さ（L1）、定着ローラの周長（L2）、定着ベルトの周長（L3）、及び最も小さいサイズの電子写真プリントの通紙方向長さ（L4）が、関係式： $L_1 > L_2$ 、 $L_3 > L_4$ を満たす請求項1に記載の電子写真装置クリーニング方法。

【請求項 3】 前記クローニングシートが、ロール形態である請求項1又は2に記載の電子写真装置クリーニング方法。

【請求項 4】 前記電子写真画像形成装置が、ロール形態の電子写真用受像シートを所定のサイズに切断する切断手段を有する請求項3に記載の電子写真装置クリーニング方法。

【請求項 5】 前記電子写真画像形成装置が、加熱加圧手段と、冷却手段とを有する冷却剥離式のベルト定着型平滑化処理機を有する請求項1から4のいずれかに記載の電子写真装置クリーニング方法。

【請求項 6】 電子写真用受像シートをプリントするときの定着温度と、クリーニング時の定着部温度が異なる請求項1から5のいずれかに記載の電子写真装置クリーニング方法。

【請求項 7】 電子写真用受像シートをプリントするときの定着速度と、クリーニング時の定着部を通過する速度が異なる請求項1から6のいずれかに記載の電子写真装置クリーニング方法。

【請求項8】 前記定着ベルトの表面に均一な厚さのフルオロカーボンシロキサンゴム製の層を設けてなる請求項1から7のいずれかに記載の電子写真装置クリーニング方法。

【請求項9】 前記定着ベルトの表面に均一な厚さのシリコーンゴム製の層を有し、かつ該シリコーンゴム層の表面にフルオロカーボンシロキサンゴム製の層を設けてなる請求項1から7のいずれかに記載の電子写真装置クリーニング方法。

【請求項10】 前記フルオロカーボンシロキサンゴムが、主鎖にパーフルオロアルキルエーテル基及び／又はパーフルオロアルキル基を有する請求項8又は9に記載の電子写真装置クリーニング方法。

【請求項11】 請求項1から10のいずれかに記載の電子写真装置クリーニング方法に用いる電子写真画像形成装置であって、支持体上に熱可塑性樹脂を含有するトナー受像層を有する電子写真用受像シートを装填する電子写真用受像シート収納手段と、該電子写真用受像シートを送り出すための電子写真用受像シート給紙手段と、電子写真用受像シートを所定のサイズに切断する電子写真用受像シート切断手段と、トナー像を前記電子写真用受像シートに転写し、加熱定着処理する加熱加圧手段とを備えたことを特徴とする電子写真画像形成装置。

【請求項12】 前記加熱加圧手段が、加熱加圧手段と冷却手段とを有する冷却剥離式のベルト定着型平滑化処理機である請求項11に記載の電子写真画像形成装置。

【請求項13】 電子写真用受像シートが、ロール形態のクリーニングシートである請求項11又は12に記載の電子写真画像形成装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、電子写真装置クリーニング方法及びそれに用いる電子写真画像形成装置に関し、更に詳述すると、定着ローラ又は定着ベルトのクリーニングを容易かつ確実に行うことができる電子写真装置クリーニング方法及びそれに用いる電子写真画像形成装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来から、電子写真方式の画像形成方法においてロール形状の電子写真用受像シートを用いることは数多く提案されている（例えば、特許文献1～4参照）。

前記特許文献1には、用紙に画像情報を印刷して冊子に製本する電子写真法による印刷製本方法において、印刷工程では印刷用紙としてロール紙を用いることが記載されている。

前記特許文献2には、ロール紙の管軸とトナー収容部とを一体とすることで、消耗品であるロール紙を交換すれば同時にトナー収容部も交換されるため、消耗品の交換作業に対するユーザの負担が減り、メンテ性を向上させることができると共に、装置の小型化を図ることができる電子写真装置が記載されている。

前記特許文献3には、ロール紙を記録紙として用いる電子写真方式の記録装置において、ロール紙とカット板状紙とで転写条件を変えることができる記録装置が記載されている。この記録装置によれば、ロール紙繰出し時、装置に付着残留していたトナーが繰り出される所定長の記録紙に転写されるので、格別のクリーニング手段の装備が不要なものである。

前記特許文献4には、感光体、カット板状転写紙の給紙手段、ロール状転写紙の給紙手段、上記両給紙手段のどちらが使用されているかを検知する給紙手段検知装置及び給紙される転写紙に画像を転写する転写手段を有する電子写真方式の転写装置において、使用される給紙手段に応じて上記転写手段の作動条件を切り換えるようにした転写装置が記載されている。

【0003】

しかしながら、上記従来技術では、熱可塑性樹脂を含有するトナー受像層を有する電子写真用受像シートのトナーや熱可塑性樹脂が、電子写真画像形成装置の定着部材にオフセットし易く、定着後のトナーや熱可塑性樹脂はオフセットするとクリーニングするのが困難であるという問題がある。

【0004】

また、ロール状の電子写真用受像シートをクリーニングに用いることは特許文献5に記載されている。この特許文献5には、電子写真方式により画像を形成し

、長尺のシートが巻かれて形成されたロール体から引き出されたロールシート紙を用い、感光体上の未転写残トナーを転写動作のみ行うことでクリーニングを行う方法が記載されている。

しかしながら、前記特許文献5は、感光体上の未定着トナーのクリーニングを行うものであり、オフセットした定着後の熱可塑性樹脂やトナーのクリーニングとは本質的に解決課題が異なるものである。

【0005】

【特許文献1】

特開平5-208573号公報

【特許文献2】

特開平6-27812号公報

【特許文献3】

特開平8-115033号公報

【特許文献4】

特開平8-146831号公報

【特許文献5】

特開平9-40245号公報

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、かかる現状に鑑みてなされたものであり、従来における前記諸問題を解決し、以下の目的を達成することを課題とする。即ち、本発明は、特にロール形態の電子写真用受像シートをクリーニングシートとして用いることにより、定着ローラ又は定着ベルトのクリーニングを容易かつ確実に行うことができる電子写真装置クリーニング方法及びそれに用いる電子写真画像形成装置を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】

前記課題を解決するため、本発明者らが、鋭意検討を重ねた結果、以下の知見を得た。

電子写真用受像シートを定着処理する際、該電子写真用受像シートは定着ローラから熱を奪うため、電子写真用受像シートの通紙方向の長さに比べて、加熱加圧手段である定着ローラ周長又は定着ベルト周長を長く形成することが好適であることを知見した。

また、定着温度によりトナー定着性が異なり、画質に対する影響が大きく、特に、熱可塑性樹脂を含有するトナー受像層を有する電子写真用受像シートを用いる場合にはより顕著な要求である。これは、トナー受像層に含まれる熱可塑性樹脂が定着時、電子写真用受像シート後方に押出される傾向にあり、電子写真用受像シート後端が接する部分の定着ローラ又は定着ベルトの汚れが問題となるからである。

前記熱可塑性樹脂を含有するトナー受像層を有する電子写真用受像シートは、この熱可塑性樹脂が定着部材にホットオフセットしやすく、熱可塑性樹脂が定着部材にオフセットすると、それをクリーニングすることは容易ではなく、また、同様にトナー樹脂もオフセットするとクリーニングすることは容易ではないことを知見した。

そこで、本発明者らが、上記知見に基づき更に鋭意検討を進めた結果、支持体上に熱可塑性樹脂を含有するトナー受像層を有する電子写真用受像シートをクリーニングシートとして用いるとクリーニングが容易かつ確実に行えることを知見した。

また、定着ローラ周長又は定着ベルト周長が、通常出力する電子写真受像シートの通紙方向長さより長い場合には、前記定着ローラ又は定着ベルト上の要クリーニング位置にクリーニングシート（電子写真用受像シート）をヒットさせて、効率よくクリーニングを行うことが困難であることを知見した。

【0008】

即ち、前記課題を解決するための手段としては、以下の通りである。

<1> 電子写真用受像シートにトナーを定着処理する加熱加圧手段を備えた電子写真画像形成装置を用いる電子写真装置クリーニング方法において、前記電子写真用受像シートが、支持体上に熱可塑性樹脂を含有するトナー受像層を有すると共に、該電子写真用受像シートの通紙方向の長さ（L1）が、前記加熱加圧

手段である定着ローラの周長（L2）又は定着ベルトの周長（L3）に比べて長い電子写真用受像シートをクリーニングシートとして用いることを特徴とする電子写真装置クリーニング方法である。

<2> 前記クリーニングシートの通紙方向長さ（L1）、定着ローラの周長（L2）、定着ベルトの周長（L3）、及び最も小さいサイズの電子写真プリンタの通紙方向長さ（L4）が、関係式： $L1 > L2, L3 > L4$ を満たす前記<1>に記載の電子写真装置クリーニング方法である。

<3> 前記クリーニングシートが、ロール形態である前記<1>又は<2>に記載の電子写真装置クリーニング方法である。

<4> 前記電子写真画像形成装置が、ロール形態の電子写真用受像シートを所定のサイズに切断する切断手段を有する前記<3>に記載の電子写真装置クリーニング方法である。

<5> 前記電子写真画像形成装置が、加熱加圧手段と、冷却手段とを有する冷却剥離式のベルト定着型平滑化処理機を有する前記<1>から<4>のいずれかに記載の電子写真装置クリーニング方法である。

<6> 電子写真用受像シートをプリントするときの定着温度と、クリーニング時の定着部温度が異なる前記<1>から<5>のいずれかに記載の電子写真装置クリーニング方法である。

<7> 電子写真用受像シートをプリントするときの定着速度と、クリーニング時の定着部を通過する速度が異なる前記<1>から<6>のいずれかに記載の電子写真装置クリーニング方法である。

<8> 前記定着ベルトの表面に均一な厚さのフルオロカーボンシロキサンゴム製の層を設けてなる前記<1>から<7>のいずれかに記載の電子写真装置クリーニング方法である。

<9> 前記定着ベルトの表面に均一な厚さのシリコーンゴム製の層を有し、かつ該シリコーンゴム層の表面にフルオロカーボンシロキサンゴム製の層を設けてなる前記<1>から<7>のいずれかに記載の電子写真装置クリーニング方法である。

<10> 前記フルオロカーボンシロキサンゴムが、主鎖にパーフルオロアル

キルエーテル基及び／又はパーグルオロアルキル基を有する前記<8>又は<9>に記載の電子写真装置クリーニング方法である。

<11> 前記<1>から<10>のいずれかに記載の電子写真装置クリーニング方法に用いる電子写真画像形成装置であって、支持体上に熱可塑性樹脂を含有するトナー受像層を有する電子写真用受像シートを装填する電子写真用受像シート収納手段と、該電子写真用受像シートを送り出すための電子写真用受像シート給紙手段と、電子写真用受像シートを所定のサイズに切断する電子写真用受像シート切断手段と、トナー像を前記電子写真用受像シートに転写し、加熱定着処理する加熱加圧手段とを備えたことを特徴とする電子写真画像形成装置である。

<12> 前記加熱加圧手段が、加熱加圧手段と冷却手段とを有する冷却剥離式のベルト定着型平滑化処理機である前記<11>に記載の電子写真画像形成装置である。

<13> 電子写真用受像シートが、ロール形態のクリーニングシートである前記<11>又は<12>に記載の電子写真画像形成装置である。

【0009】

【発明の実施の形態】

<電子写真装置クリーニング方法及び電子写真画像形成装置>

本発明の電子写真装置クリーニング方法は、電子写真用受像シートにトナー定着処理する加熱加圧手段を有する電子写真画像形成装置を用い、前記電子写真用受像シートをそのままクリーニングシートとして適用したものである。

本発明の電子写真画像形成装置は、前記本発明の電子写真装置クリーニング方法に用いられる。

以下、本発明の電子写真装置クリーニング方法の説明を通じて、本発明の電子写真画像形成装置の詳細も明らかにする。

【0010】

前記電子写真用受像シート（クリーニングシート）としては、支持体上に熱可塑性樹脂を含有するトナー受像層を有すると共に、前記加熱加圧手段である定着ローラの周長（L2）又は定着ベルトの周長（L3）に比べて、通紙方向の長さ（L1）が長い電子写真用受像シートをクリーニングシートとして用いる。

前記クリーニングシート（電子写真用受像シート）の通紙方向長さ（L1）が、定着ローラの周長（L2）又は定着ベルトの周長（L3）に比べて短いと、電子写真用受像シートが定着ローラ又は定着ベルトに接する面積が少くなりクリーニング効率が低下する。

例えば、クリーニングシートの通紙方向長さ（L1）は、定着ローラの周長（L2）又は定着ベルトの周長（L3）に比べて0.5～10cm長く形成されることが好ましい。

【0011】

具体的には、図1～図3に示したように、前記クリーニングシートの通紙方向長さ（L1）、定着ローラの周長（L2）、定着ベルトの周長（L3）、及び最も小さいサイズの電子写真プリントの通紙方向長さ（L4）が、関係式： $L_1 > L_2, L_3 > L_4$ を満たすことが加熱加圧手段の全周を一度にクリーニングでき、クリーニング性を高めることができる点で好ましい。

ここで、前記電子写真プリントとしては、通常、Lサイズ（89mm×127mm）プリント、A6サイズ（105mm×150mm）プリント、A4サイズ（210mm×300mm）プリント、などが挙げられるが、クリーニング対象である電子写真画像形成装置における最も小さいサイズをL4とする。

【0012】

前記電子写真用受像シートが、ロール形態であり、該電子写真用受像シートを所定のサイズに切断する切断手段を有する場合には、加熱加圧手段である定着ローラの周長（L2）又は定着ベルトの周長（L3）に応じて電子写真用受像シートの通紙方向長さを調節することができ、加熱加圧手段の全周を一度にクリーニング可能なクリーニングシートを容易に作成できるので好ましい。

【0013】

前記電子写真用受像シートをプリントするときの定着温度と、クリーニング時の定着部温度が異なることが好ましい。例えば、プリントするときの定着温度に対して、クリーニング時の定着部温度がやや低温であることが、クリーニング性能を向上させる点で好ましい。

【0014】

前記電子写真用受像シートをプリントするときの定着速度と、クリーニング時の定着部を通過する速度が異なる好ましい。例えば、プリントするときの定着速度に対して、クリーニング時の定着部を通過する速度がやや低速であることが、クリーニング性能を向上させる点で好ましい。

【0015】

前記電子写真用受像シートとしては、支持体上に熱可塑性樹脂を含有するトナー受像層を有するものであれば特に制限はなく、目的に応じて適宜選択することができる。なお、電子写真用受像シートの詳細な説明については後述する。

【0016】

<電子写真画像形成装置>

前記本発明の電子写真装置クリーニング方法に用いる電子写真画像形成装置は、電子写真用受像シート収納手段と、電子写真用受像シート給紙手段と、電子写真用受像シート切断手段と、加熱加圧手段とを備え、更に、加熱加圧手段としては冷却剥離式のベルト定着型平滑化処理機は好適であり、その他の手段を有する。

【0017】

<<電子写真用受像シート収納手段>>

前記電子写真用受像シート収納手段としては、支持体上に熱可塑性樹脂を含有するトナー受像層を有する電子写真用受像シートを装填することができるものであれば特に制限はなく、公知の電子写真用受像シート収納手段から適宜選択して用いることができる。

前記収納手段としては、例えば、シートトレイ、マガジンラックなどが挙げられる。

【0018】

<<電子写真用受像シート給紙手段>>

前記電子写真用受像シート給紙手段としては、電子写真用受像シートを送り出すことができるものであれば特に制限はなく、公知の電子写真用受像シート給紙手段から適宜選択して用いることができる。

前記給紙手段としては、例えば、ピックアップローラーを用いる方法などが挙

げられる。

【0019】

<<電子写真用受像シート切断手段>>

前記切断手段としては、電子写真用受像シートを所定のサイズに切断することができる限り特に制限はなく、目的に応じて適宜選択することができるが、公知の電子写真用受像シート切断手段から適宜選択して用いることができる。

前記切断手段としては、例えば、ギロチンカッター、サーキュラーカッターなどが挙げられる。

【0020】

<<加熱加圧手段>>

前記加熱加圧手段としては、特に制限はなく、目的に応じて適宜選択することができるが、例えば、公知の電子写真装置における定着装置として使用されているものなどが挙げられ、例えば、一対の加熱ローラを有するものなどが好適に挙げられる。

前記一対の加熱ローラとしては、特に制限はなく、目的に応じて適宜選択することができるが、例えば、公知の電子写真装置に用いられている加熱ローラ対などの中から適宜選択することができ、ニップ圧、加熱温度等を調節可能であるものが好ましい。

【0021】

前記加熱加圧手段は、前記熱可塑性樹脂層を構成する熱可塑性樹脂の軟化点以上の温度で加熱加圧することが好ましい。具体的には、前記熱可塑性樹脂の種類に応じて適宜選択することができるが、例えば、通常、50～120℃程度であり、前記電子写真用受像シートのトナー受像層が熱可塑性樹脂層を有している場合には80～110℃が好ましく、該熱可塑性樹脂層がポリエチレン層である場合には95～105℃がより好ましい。

【0022】

<<ベルト定着型平滑化処理機>>

前記ベルト定着型平滑化処理機は、加熱加圧手段と、冷却装置と、冷却剥離部とを有し、更に必要に応じてその他の部材を備えている。

【0023】

前記ベルト定着型平滑化処理機におけるベルトは、耐熱性支持体フィルムと、該支持体フィルム上に形成された離型層とを有する。

前記支持体フィルムとしては、耐熱性を備えていれば特に制限はなく、例えば、ポリイミド（P I）、ポリエチレンナフタレート（P E N）、ポリエチレンテレフタレート（P E T）、ポリエーテルエーテルケトン（P E E K）、ポリエーテルサルホン（P E S）、ポリエーテルイミド（P E I）、ポリパラバン酸（P A）、などが挙げられる。

【0024】

前記離型層としては、シリコーンゴム、フッ素ゴム、フルオロカーボンシロキサンゴム、シリコーン樹脂、フッ素樹脂からなる群より選択される1種又は2種以上が好ましい。これらの中でも、定着ベルトの表面に均一な厚さのフルオロカーボンシロキサンゴム製の層を設ける様、前記ベルト部材の表面に均一な厚さのシリコーンゴム製の層を有し、かつ該シリコーンゴム層の表面にフルオロカーボンシロキサンゴム製の層を設ける様が好ましい。

これにより、オフセットの発生やロングラン稼動（10万枚程度）でのベルト汚れを抑制でき、光沢度の低下が防止できる。

【0025】

前記フルオロカーボンシロキサンゴムとしては、主鎖にパーフルオロアルキルエーテル基及び／又はパーフルオロアルキル基を有するものが好ましい。

このようなフルオロカーボンシロキサンゴムとしては、（A）下記一般式（1）のフルオロカーボンシロキサンを主成分とし、脂肪族不飽和基を有するフルオロカーボンポリマー、（B）1分子中に2個以上の≡S i H基を含有し、上記フルオロカーボンシロキサンゴム組成物中の脂肪族不飽和基量に対して上記≡S i H基の含有量が1～4倍モル量であるオルガノポリシロキサン及び／又はフルオロカーボンシロキサン、（C）充填剤、（D）有効量の触媒を含有するフルオロカーボンシロキサンゴム組成物の硬化物が好適に用いられる。

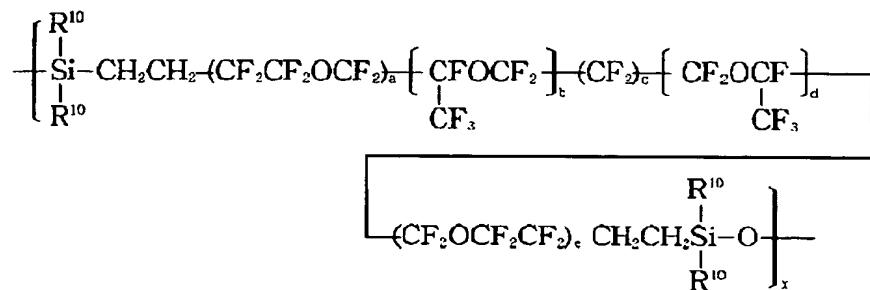
【0026】

前記（A）成分のフルオロカーボンポリマーは、下記一般式（1）で示される

繰り返し単位を有するフルオロカーボンシロキサンを主成分とし、脂肪族不飽和基を有するものである。

【0027】

【化1】



… (1)

【0028】

ここで、上記式（1）において、R¹⁰は非置換又は置換の好ましくは炭素数1～8の一価炭化水素基であり、好ましくは炭素数1～8のアルキル基又は炭素数2～3のアルケニル基であり、特にメチル基であることが好ましい。a, eはそれぞれ0又は1、b, dはそれぞれ1～4の整数、cは0～8の整数である。また、xは1以上の整数、好ましくは10～30である。

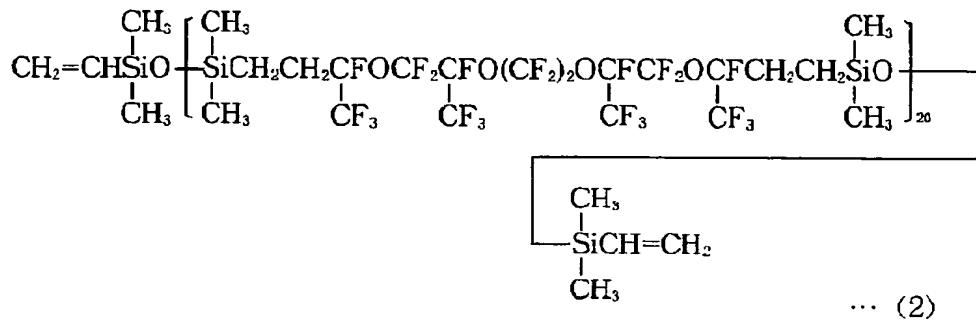
【0029】

このような（A）成分としては、下記式（2）で示すものを挙げることができ

る。

【0030】

【化2】



【0031】

(B) 成分において、≡SiH基を有するオルガノポリシロキサンとしては、ケイ素原子に結合した水素原子を分子中に少なくとも2個有するオルガノハイドロジエンポリシロキサンを挙げることができる。

【0032】

また、本発明で用いるフルオロカーボンシロキサンゴム組成物においては、(A) 成分のフルオロカーボンポリマーが脂肪族不飽和基を有するものであるときには、硬化剤として上述したオルガノハイドロジエンポリシロキサンを使用することができる。即ち、この場合には、フルオロカーボンシロキサン中の脂肪族不飽和基と、オルガノハイドロジエンポリシロキサン中のケイ素原子に結合した水素原子との間で生ずる付加反応によって硬化物が形成されるものである。

【0033】

このようなオルガノハイドロジエンポリシロキサンとしては、付加硬化型のシリコーンゴム組成物に使用される種々のオルガノハイドロジエンポリシロキサンを使用することができる。

【0034】

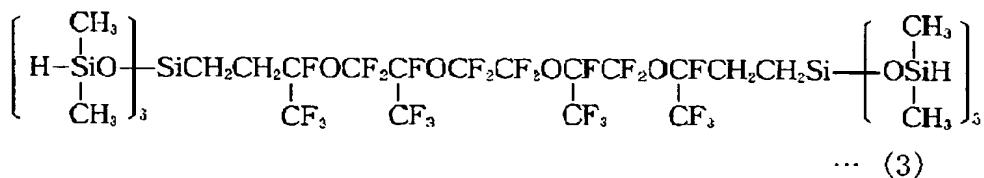
上述したオルガノハイドロジエンポリシロキサンは、一般にその≡SiH基の数が、(A) 成分のフルオロカーボンシロキサン中の脂肪族不飽和炭化水素基1個に対して、少なくとも1個、特に1～5個となるような割合で配合することが好適である。

【0035】

また、 $\equiv SiH$ 基を有するフルオロカーボンとしては、上記式（1）の単位又は式（1）においてR₁₀がジアルキルハイドロジェンシロキシ基であり、かつ末端がジアルキルハイドロジェンシロキシ基又はシリル基等のSiH基であるものが好ましく、下記式（3）で示すものを挙げることができる。

【0036】

【化3】



【0037】

(C) 成分の充填剤としては、一般的なシリコーンゴム組成物に使用されている種々の充填剤を用いることができる。例えば、煙霧質シリカ、沈降性シリカ、カーボン粉末、二酸化チタン、酸化アルミニウム、石英粉末、タルク、セリサイト及びペントナイト等の補強性充填剤、アスベスト、ガラス纖維、有機纖維等の纖維質充填剤などを例示することができる。

【0038】

(D) 成分の触媒としては、付加反応用触媒として公知とされている塩化白金酸、アルコール変性塩化白金酸、塩化白金酸とオレフィンとの錯体、白金黒又はパラジウムをアルミナ、シリカ、カーボンなどの担体に担持したもの、ロジウムとオレフィンとの錯体、クロロトリス(トリフェニルfosfin)ロジウム(ウイルキンソン触媒)、ロジウム(III)アセチルアセトネートなどのような周期律表第VII族元素又はその化合物が例示されるが、これらの錯体はアルコール系、エーテル系、炭化水素などの溶剤に溶解して用いることが好ましい。

【0039】

本発明で用いるフルオロカーボンシロキサンゴム組成物においては、耐溶剤性

を向上させるという本発明の目的を損なわない範囲において、種々の配合剤を添加することができる。例えば、ジフェニルシランジオール、低重合度の分子鎖末端水酸基封鎖ジメチルポリシロキサン、ヘキサメチルジシラザン等の分散剤、酸化第一鉄、酸化第二鉄、酸化セリウム、オクチル酸鉄等の耐熱性向上剤、顔料等の着色剤等を必要に応じて配合することができる。

【0040】

前記本発明の定着用ベルトは、耐熱性支持体フィルムの表面を上記フルオロカーボンシロキサンゴム組成物で被覆し、加熱硬化することによって得られるが、必要に応じて更に、m-キシレンヘキサフロライド、ベンゾトリフロライド等の溶剤で希釈して塗工液とし、スプレーコート、ディップコート及びナイフコート等の一般的なコーティング法によって塗布することができる。また、加熱硬化の温度、時間は適宜選定することができ、通常温度100～500℃、時間5秒～5時間の範囲で支持体フィルムの種類及び製造方法などに応じて選択される。

【0041】

前記ベルトの表面に形成する離型層の厚みは、特に制限はないが、トナーの剥離性又はトナー成分のオフセットを防止して画像の良好な定着性を得るため、1～200μm、特に5～150μmが好ましい。

【0042】

前記ベルト定着方式としては、例えば、特開平11-352819号公報に記載のオイルレスタイプのベルト定着方法、特開平11-231671号公報及び特開平5-341666号公報に記載の二次転写と定着を同時に達成する方法等が知られている。本発明でいう定着ベルトを有する電子写真装置は、例えば、少くとも、トナーを溶融し、加圧し得る加熱加圧部と、トナーの付着した受像材料をトナー受像層と接する状態で搬送することができる定着ベルトと、任意に、加熱した受像材料を定着ベルトに付着させたままの状態で冷却できる冷却部とを有するベルト方式のトナー定着部を有する電子写真装置が挙げられる。このようない定着ベルトを有する電子写真装置にトナー受像層を有する電子写真用受像シートを使用することにより、トナー受像層に付着したトナーが、受像材料に広がることなく細密に定着されると共に、定着ベルトに密着した状態で溶融トナーが冷

却・固化するので、トナー受像層にトナーが完全に埋め込まれた状態でトナー受像層に受容される。従って、画像段差がなく、光沢のある平滑なトナー画像を得ることができる。

【0043】

本発明で形成される電子写真用受像シートは、特にオイルレス方式のベルト定着方式による画像形成方法に好適であり、これにより、オフセットが大幅に改善される。但し、それ以外の各種の画像形成法に対しても、同様に使用することができる。

例えば、本発明の電子写真用受像シートを使用することにより、フルカラー画像を、画質の改善及びひび割れの防止を図りながら、好適に形成することができる。カラー画像の形成は、フルカラー画像を形成し得る電子写真装置を用いて行うことができる。通常の電子写真装置は、受像紙搬送部と、潜像形成部と、潜像形成部に近接して配設されている現像部とがあり、機種によっては、装置本体の中央に潜像形成部と受像紙搬送部に近接してトナー像中間転写部を有している。

【0044】

更に、画質の向上を図るための方法として、静電転写又はバイアスローラ転写に代わって、或いは併用して、粘着転写又は熱支援型の転写方式が知られている。例えば、特開昭63-113576号公報及び特開平5-341666号公報にはその具体的な構造が記載されている。特に熱支援型転写方式の中間転写ベルトを用いる方法が好ましい。また、電子写真用受像シートへのトナー転写後又は転写後半の中間ベルトには冷却装置を設けることが好ましい。該冷却装置により、トナー（トナー画像）は、それに使用されるバインダー樹脂の軟化温度又はトナーのガラス転移温度以下に冷却され、効率よく電子写真用受像シートに転写され、中間ベルトからの剥離が可能となる。

【0045】

定着は、最終画像の光沢や平滑性を左右する重要な工程である。定着方式は、加熱加圧ローラによる定着、ベルトを用いたベルト定着などが知られているが、上記光沢、平滑性等の画像品質の点からはベルト定着方式の方が好ましい。ベルト定着方式については、例えば、特開平11-352819号公報に記載のオイ

ルレスタイルのベルト定着方法、特開平11-231671号公報及び特開平5-341666号公報に記載の二次転写と定着を同時に達成する方法等が知られている。また、定着ベルトと定着ローラによる加圧及び加熱の前に、熱ローラによる一次定着を行ってもよい。

【0046】

図4は、本発明のカラー複写機（画像形成装置）100の一例を示す概略構成図である。このカラー複写機100は、装置本体104と、画像読取装置（原稿読取手段）102とから構成されている。また、装置本体104内には、画像出力部（画像形成部）と定着装置101とが内蔵されている。

前記画像形成部は、複数の張架ローラに張架され回転される無端状の中間転写ベルト9と、該中間転写ベルト9の回転方向の上流側から下流側にかけて並んでいるイエロー、マゼンタ、シアン、ブラックの各色トナー画像を形成する電子写真画像形成ユニット1Y～Kと、中間転写ベルト9に対峙するベルトクリーニング装置14、同じく中間転写ベルト9に対峙する二次転写ローラ12、普通紙（受像シート）18（S）、専用光沢紙（受像シート）18（P）をそれぞれ収容する用紙トレイ17、ピックアップローラ17a、搬送ローラ対19、24、レジストローラ対20、排出トレイ26などを備えている。

【0047】

また、各電子写真画像形成ユニット1Y～Kは、感光体ドラム2、帯電ローラ3、現像装置5、一次転写ローラ6、ドラムクリーニング装置7、除電ローラ8などを備えている。

【0048】

図5は、定着装置101の構成を説明するものである。この定着装置101は、熱源を有する加熱定着ローラ（加熱ローラ）40、剥離ローラ（張架ローラ）44、ステアリングローラ（張架ローラ）45、加熱定着ローラ40及び剥離ローラ44とステアリングローラ45に巻き回された定着ベルト（無端ベルト）47、定着ベルト47を介して加熱定着ローラ40に押圧してニップを形成する加圧ローラ42、定着ベルト47の回転方向のニップ下流側にて定着ベルト47を冷却する冷却器（冷却部）46を有し、トナーを担持した受像シート18は、ト

ナー画像が定着ベルト47と接するようにニップ部に搬送されて加熱加圧定着され、冷却器46で定着ベルト47及び受像シート18が冷却された後に、定着ベルト47と受像シート18を剥離するベルト定着器である。

【0049】

前記加熱定着ローラ40は、熱伝導性の高い金属製のコア40aの表面に、PFAチューブ等のフッ素樹脂層からなる離型層40bを形成し、コア40a中に、ハロゲンランプなどの加熱源41が備えられ、加熱定着ローラ40の表面温度が所定の温度になるように加熱し、定着ベルト47とトナー像が形成された受像シート18を加熱する。加圧ローラ42は、熱伝導性の高い金属製のコア42aの周囲に、ゴム硬度（JIS-A）が40°程度のシリコーンゴム等からなる弾性体層42bを被覆し、更に、その表面にPFAチューブ等のフッ素樹脂層からなる離型層42cを形成し、コア42a中に、ハロゲンランプなどの加熱源43が備えられ、加圧ローラ42の表面温度が所定の温度になるように加熱し、定着時の受像シート18に圧力を印加させると同時に、受像シート18を裏面から加熱させる。加熱定着ローラ40と加圧ローラ42の構成は上述した構成に限定されるものではなく、受像シート18上に形成されたトナー画像を、定着ベルト47を介して受像シート18上に定着できる構成であればよい。

【0050】

前記剥離ローラ44は、定着ベルト47から受像シート18を受像シート18自身の剛性により剥離させるものであり、その外径形状（寸法）は定着ベルト47と受像シート18の付着力、及び定着ベルト47の剥離ローラ44への巻き付け角度によって決定される。ステアリングローラ45は、定着ベルト47を回転させることにより発生する片寄りによるベルト端部の破損を防止するためのものであり、一方の軸が固定され、他方の軸を図示しない駆動装置により加熱定着ローラ40に対して傾かせることで、定着ベルト47が片寄った場合、逆方向にベルトの進行方向を変える役割を果たす。

【0051】

前記冷却器46は、定着ベルト47と、密着している受像シート18を冷却するためのものであり、定着ベルト47の内周面で、且つ加熱定着ローラ40の下

流側、剥離ローラ44の上流側に配設されている。冷却器46は、加熱定着ローラ40と加圧ローラ42により溶融させられた受像シート18の表面の透明樹脂層18aとトナー像を冷却させ、画像表面全体を定着ベルト47表面にならった平滑な状態で固化させる機能を有する。

【0052】

前記定着ベルト47は、熱硬化型ポリイミド製の無端状フィルム上に、東レ・ダウコーニング・シリコーン社製 シリコーンゴム用プライマーであるDY39-115を塗布後、風乾30分の後、シリコーンゴム前駆体であるDY35-796AB 100質量部とn-ヘキサン 30質量部により調整した塗布液を浸漬塗布により塗膜を形成し、120℃で10分の一次加硫を行い、シリコーンゴム40μmを得た。

このシリコーンゴム層上に、信越化学工業社製 フルオロカーボンシロキサンゴム前駆体であるSIFEL610 100質量部とフッ素系溶媒（m-キシレンヘキサフロライド、パーフロロアルカン、パーフロロ（2-ブチルテトラヒドロフラン）の混合溶剤） 20質量部により調整した塗布液を浸漬塗布により塗膜を形成した後、120℃で10分の一次加硫、180℃で4時間の二次加硫を行い、フルオロカーボンシロキサンゴムが20μmの膜厚を有するベルトを用いた。

【0053】

ここで、定着装置101は、画像読み取り装置102の下側に存在し、画像形成部（例えば、転写位置）の上側に存在する。また、定着装置101は、画像形成部（例えば、中間転写ベルト9）の真上領域に存在し、かつ画像読み取り装置102の真下領域に存在する。また、二次転写位置から定着装置101に至る受像シート18の搬送経路の全部は、画像形成部（例えば、中間転写ベルト9）の真上領域に存在している。更に、二次転写位置と一次転写位置とを結ぶ一次定着直線の鉛直成分は、実質的に鉛直方向となっている。また、二次転写位置と定着位置とを結ぶ定着直線の鉛直成分は、当該定着直線の水平成分よりも小さいものである。また、定着装置101から排出される受像シート18は、画像形成部（例えば、中間転写ベルト9）の真上領域に排出される。

【0054】

<<電子写真用受像シート>>

本発明の電子写真用受像シートは、支持体と、該支持体の少なくとも一面に設けられた熱可塑性樹脂を含有するトナー受像層とを有し、必要に応じて適宜選択したその他の層、例えば、保護層、中間層、下塗り層、クッション層、帯電調節（防止）層、反射層、色味調製層、保存性改良層、接着防止層、アンチカール層、平滑化層などを有してなる。これらの各層は単層構造であってもよいし、積層構造であってもよい。

【0055】

〔支持体〕

前記支持体としては、例えば、紙、合成紙、合成樹脂シート、これらシートに樹脂を塗工したコート紙、該シートに樹脂をラミネートしたラミネート紙、等が挙げられる。これらの支持体は、単層構成でもよく、2層以上の積層構成でもよい。

【0056】

—原紙—

前記原紙の原料としては、支持体に使用されるものとして公知の原紙に使用されるものを特に制限なく、各種の材料から選ぶことができる。例えば、針葉樹、広葉樹から選ばれる天然パルプ、ポリエチレン、ポリプロピレン等のプラスチック材料製の合成パルプ、或いは天然パルプと合成パルプの混合物等が挙げられる。

【0057】

前記原紙の原料として使用できるパルプとしては、原紙の表面平滑性、剛性及び寸法安定性（カール性）を同時にバランス良く、かつ十分なレベルにまで向上させる点から、広葉樹晒クラフトパルプ（L B K P）が望ましいが、針葉樹晒クラフトパルプ（N B K P）、広葉樹サルファイトパルプ（L B S P）等を使用することもできる。

パルプ纖維は、纖維長のもともと短い広葉樹パルプを主体に使用することが適当である。

パルプの叩解には、ビータやリファイナー等を使用できる。パルプを叩解した後に得られるパルプスラリー（以下、「パルプ紙料」と称することがある）には、必要に応じて、各種添加材、例えば、填料や、乾燥紙力増強剤、サイズ剤、湿潤紙力増強剤、定着剤、pH調整剤、その他の薬剤などが添加される。

【0058】

前記填料としては、例えば、炭酸カルシウム、クレー、カオリン、白土、タルク、酸化チタン、珪藻土、硫酸バリウム、水酸化アルミニウム、水酸化マグネシウム、等が挙げられる。

前記乾燥紙力増強剤としては、例えば、カチオン化澱粉、カチオン化ポリアクリルアミド、アニオン化ポリアクリルアミド、両性ポリアクリルアミド、カルボキシ変性ポリビニルアルコール等が挙げられる。

前記サイズ剤としては、例えば、脂肪酸塩、ロジン、マレイン化ロジン等のロジン誘導体、パラフィンワックス等や、更には、アルキルケンテンダイマー、アルケニル無水琥珀酸（ASA）、エポキシ化脂肪酸アミド等の高級脂肪酸を含有する化合物等が挙げられる。

【0059】

前記湿潤紙力増強剤としては、例えば、ポリアミンポリアミドエピクロロヒドリン、メラミン樹脂、尿素樹脂、エポキシ化ポリアミド樹脂等が挙げられる。

前記定着剤としては、例えば、硫酸アルミニウム、塩化アルミニウム等の多価金属塩、カチオン化澱粉等のカチオン性ポリマー等が挙げられる。

前記pH調整剤としては、例えば、苛性ソーダや、炭酸ソーダ等が挙げられる。その他の薬剤としては、例えば、消泡剤、染料、スライムコントロール剤、蛍光増白剤等が挙げられる。

また、必要に応じて、柔軟化剤等を添加することもできる。柔軟化剤については、例えば、新・紙加工便覧（紙薬タイム社編）554～555頁（1980年発行）に記載がある。

【0060】

表面サイズ処理に使用される処理液には、例えば、水溶性高分子、サイズ剤、耐水性物質、顔料、pH調整剤、染料、蛍光増白剤などが含まれていてもよい。

水溶性高分子としては、例えば、カチオン化澱粉、ポリビニルアルコール、カルボキシ変性ポリビニルアルコール、カルボキシメチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、セルロースサルフェート、ゼラチン、カゼイン、ポリアクリル酸ナトリウム、スチレン-無水マレイン酸共重合体ナトリウム塩、ポリスチレンスルホン酸ナトリウム等が挙げられる。

【0061】

前記耐水性物質としては、例えば、スチレン-ブタジエン共重合体、エチレン-酢酸ビニル共重合体、ポリエチレン、塩化ビニリデン共重合体等のラテックス・エマルジョン類、ポリアミドポリアミンエピクロルヒドリン挙げられる。

前記顔料としては、例えば、炭酸カルシウム、クレー、カオリン、タルク、硫酸バリウム、酸化チタン等が挙げられる。

原紙の材料の例としては、上記した天然パルプ紙の他に、合成パルプ紙、天然パルプと合成パルプの混抄紙、更には、各種の抄き合わせ紙を上げることができる。

【0062】

上記のような紙は、電子写真用受像紙の剛性及び寸法安定性（カール性）の向上を図る点で、縦方向ヤング率（E a）と横方向ヤング率（E b）の比（E a/E b）が1.5～2.0の範囲にあることが好ましい。E a/E b値が1.5未満、或いは2.0を超える範囲では、電子写真用受像紙の剛性や、カール性が悪くなり易く、搬送時の走行性に支障をきたすことになるため、好ましくない。

【0063】

本発明においては、紙のトナー受像層側表面の王研式平滑度は、210秒以上、好ましくは、250秒以上である。王研式平滑度が、210秒未満であると、トナー画像の画質が不良となり、好ましくない。なお、上限は、特に限定されるものではないが、実際上、600秒程度、好ましくは、500秒程度が適当であろう。

ここで、王研式平滑度は、JAPAN TAPP I No. 5 B法で規定される平滑度である。

【0064】

一般に、紙の「こし」は、叩解の様式の相違に基いて異なることが分かっており、叩解後、抄紙してなる紙が持つ弾性力（率）を紙の「こし」の程度を表す重要な因子として用いることができる。特に、紙が持つ粘弹性体の物性を示す動的弾性率と密度との関係を利用し、これに超音波振動素子を使って紙中を伝播する音速を測定することにより、紙の弾性率を下記の式より求めることができる。

$$E = \rho c^2 (1 - n^2)$$

[E : 動的弾性率、 ρ : 密度、 c : 紙中の音速、 n : ポアソン比]

【0065】

また、通常の紙の場合、 $n = 0.2$ 程度であるため、下記の式で計算しても大差なく、算出することができる。

$$E = \rho c^2$$

即ち、紙の密度、音速を測定することができれば、容易に弾性率を求めることができます。上式において、音速を測定する場合には、ソニックテスター SST-110型（野村商事（株）製）等の公知の各種機器を用いることができる。

【0066】

前記原紙の厚みは、通常、 $30 \sim 500 \mu\text{m}$ 、好ましくは $50 \sim 300 \mu\text{m}$ 、より好ましくは $100 \sim 250 \mu\text{m}$ であることが適当である。原紙の坪量は、例えば、好ましくは $50 \sim 250 \text{ g/m}^2$ 、より好ましくは $100 \sim 200 \text{ g/m}^2$ の範囲にあることが好ましい。

【0067】

紙には、具体的には、上質紙や、例えば、日本写真学会編「写真工学の基礎—銀塩写真編一」、株式会社コロナ社刊（昭和54年）（223）～（240）頁記載の紙等が好適なものとして挙げられる。

【0068】

前記原紙には、表面に所望の中心線平均粗さを付与するために、例えば、特開昭58-68037号公報に開示されているように、纖維長分布（例えば、24メッシュスクリーン残留分と、42メッシュスクリーン残留分との合計が、例えば、20質量%～45質量%で、かつ24メッシュスクリーン残留分が5質量%以下）のパルプ纖維を使用するのが好ましい。また、マシンカレンダー及びスー

パーカレンダー等で熱及び圧力を加えて表面処理することにより、中心線平均粗さを調整することができる。

【0069】

－合成紙－

前記合成紙は、セルロース以外のポリマー繊維を主成分とする紙であり、前記ポリマー繊維としては、例えば、ポリエチレン、ポリプロピレン等のポリオレフィン繊維、などが挙げられる。

【0070】

－合成樹脂シート（フィルム）－

前記合成樹脂シート（フィルム）としては、合成樹脂をシート状に成形したもの等が挙げられ、例えば、ポリプロピレン、延伸ポリエチレン、延伸ポリプロピレン、ポリエステルフィルム、延伸ポリエステル、ナイロンフィルム、延伸により白色にしたフィルム、白色顔料を含む白色フィルムなどが挙げられる。

【0071】

－コート紙－

前記コート紙は、原紙等のシートに、各種の樹脂、ゴムラテックス又は高分子材料を片面又は両面に塗工した紙であり、用途に応じて、塗工量が異なる。このようなコート紙としては、例えば、アート紙、キャストコート紙、ヤンキー紙等が挙げられる。

【0072】

前記原紙等の表面に塗工する樹脂としては、熱可塑性樹脂を使用することが適当である。このような熱可塑性樹脂としては、例えば、以下の（イ）～（チ）の熱可塑性樹脂を例示することができる。

【0073】

（イ）ポリエチレン樹脂、ポリプロピレン樹脂等のポリオレフィン樹脂や、エチレンやプロピレン等のオレフィンと、他のビニルモノマーとの共重合体樹脂や、アクリル樹脂等が挙げられる。

（ロ）エステル結合を有する熱可塑性樹脂である。例えば、ジカルボン酸成分（これらのジカルボン酸成分にはスルホン酸基、カルボキシル基等が置換していて

もよい）と、アルコール成分（これらのアルコール成分には水酸基などが置換されていてもよい）との縮合により得られるポリエステル樹脂、ポリメチルメタクリレート、ポリブチルメタクリレート、ポリメチルアクリレート、ポリブチルアクリレート等のポリアクリル酸エステル樹脂又はポリメタクリル酸エステル樹脂、ポリカーボネート樹脂、ポリ酢酸ビニル樹脂、スチレンアクリレート樹脂、スチレン-メタクリル酸エステル共重合体樹脂、ビニルトルエンアクリレート樹脂等が挙げられる。

具体的には、特開昭59-101395号公報、同63-7971号公報、同63-7972号公報、同63-7973号公報、同60-294862号公報などに記載のものを挙げることができる。

また、市販品としては、東洋紡製のバイロン290、バイロン200、バイロン280、バイロン300、バイロン103、バイロンGK-140、バイロンGK-130；花王製のタフトンNE-382、タフトンU-5、ATR-2009、ATR-2010；ユニチカ製のエリーテルUE3500、UE3210、XA-8153、KZA-7049、KZA-1449；日本合成化学製のポリエスターTP-220、R-188；星光化学工業社製のハイロスシリーズの各種熱可塑性樹脂、等が挙げられる。

【0074】

- (ハ) ポリウレタン樹脂等が挙げられる。
- (ニ) ポリアミド樹脂、尿素樹脂等が挙げられる。
- (ホ) ポリスルホン樹脂等が挙げられる。
- (ヘ) ポリ塩化ビニル樹脂、ポリ塩化ビニリデン樹脂、塩化ビニル-酢酸ビニル共重合体樹脂、塩化ビニル-プロピオン酸ビニル共重合体樹脂等が挙げられる。
- (ト) ポリビニルブチラール等の、ポリオール樹脂、エチルセルロース樹脂、酢酸セルロース樹脂等のセルロース樹脂等が挙げられる。
- (チ) ポリカプロラクトン樹脂、スチレン-無水マレイン酸樹脂、ポリアクリロニトリル樹脂、ポリエーテル樹脂、エポキシ樹脂、フェノール樹脂等が挙げられる。

なお、前記熱可塑性樹脂は、1種単独で使用してもよく、2種以上を併用して

もよい。

【0075】

また、前記樹脂には、増白剤や、導電剤、填料、酸化チタン、群青、カーボンブラック等の顔料や染料等を必要に応じて含有させておくことができる。

【0076】

—ラミネート紙—

前記ラミネート紙は、原紙等のシートに、各種の樹脂、ゴム又は高分子シート又はフィルム等をラミネートした紙である。前記ラミネート材料としては、例えば、ポリオレフィン、ポリ塩化ビニル、ポリエチレンテレフタレート、ポリスチレン、ポリメタクリレート、ポリカーボネート、ポリイミド、トリアセチルセルロース等が挙げられる。これらの樹脂は、1種単独で使用してもよく、2種以上を併用してもよい。

【0077】

前記ポリオレフィンは、一般に低密度ポリエチレンを用いて形成することが多いが、支持体の耐熱性を向上させるために、ポリプロピレン、ポリプロピレンとポリエチレンとのブレンド、高密度ポリエチレン、高密度ポリエチレンと低密度ポリエチレンとのブレンド等を用いるのが好ましい。特に、コストや、ラミネート適性等の点から、高密度ポリエチレンと低密度ポリエチレンとのブレンドを用いるのが最も好ましい。

【0078】

前記高密度ポリエチレンと、前記低密度ポリエチレンとのブレンドは、例えば、ブレンド比率（質量比） $1/9 \sim 9/1$ で用いられる。該ブレンド比率としては、 $2/8 \sim 8/2$ が好ましく、 $3/7 \sim 7/3$ がより好ましい。該支持体の両面に熱可塑性樹脂層を形成する場合、支持体の裏面は、例えば、高密度ポリエチレン、或いは高密度ポリエチレンと低密度ポリエチレンとのブレンドを用いて形成されるのが好ましい。ポリエチレンの分子量としては、特に制限はないが、マルトイソデックスが、高密度ポリエチレン及び低密度ポリエチレンのいずれについても、 $1.0 \sim 40\text{ g}/10\text{ 分}$ の間のものであって、押出し適性を有するものが好ましい。

尚、これらのシート又はフィルムには、白色反射性を与える処理を行ってもよい。このような処理方法としては、例えば、これらのシート又はフィルム中に酸化チタンなどの顔料を配合する方法が挙げられる。

【0079】

前記支持体の厚みとしては、 $25\text{ }\mu\text{m} \sim 300\text{ }\mu\text{m}$ が好ましく、 $50\text{ }\mu\text{m} \sim 260\text{ }\mu\text{m}$ がより好ましく、 $75\text{ }\mu\text{m} \sim 220\text{ }\mu\text{m}$ が更に好ましい。該支持体の剛度としては、種々のものがその目的に応じて使用することが可能であり、写真画質の電子写真用受像シート用の支持体としては、カラー銀塩写真用の支持体に近いものが好ましい。

【0080】

〔トナー受像層〕

前記トナー受像層は、カラーや黒トナーを受容し、画像を形成するための受像層である。該トナー受像層は、転写工程にて、(静)電気、圧力等にて現像ドラム或いは中間転写体より画像を形成するトナーを受容し、定着工程にて熱、圧力等にて固定化する機能を有する。前記トナー受像層は、熱可塑性樹脂を主成分として含有し、離型剤、その他の成分を含有する。

この場合、支持体の少なくとも片面に熱可塑性樹脂を含むトナー層を有することが好ましく、該トナー受像層の厚みは $3\text{ }\mu\text{m}$ 以上が好ましく、 $4\text{ }\mu\text{m}$ 以上がより好ましい。これにより、環境変化に対してカール、ひび割れの発生のない、光沢感のある写真画質が得られる。

【0081】

—熱可塑性樹脂—

前記熱可塑性樹脂としては、定着時等の温度条件下で変形可能であり、トナーを受容し得るものであれば特に制限はなく、目的に応じて適宜選択することができるが、トナーのバインダー樹脂と同系の樹脂が好ましい。前記トナーの多くにおいてポリエステル樹脂やスチレン、スチレン-ブチルアクリレートなどの共重合樹脂が用いられているので、この場合、前記電子写真用受像シートに用いられる熱可塑性樹脂としても、ポリエステル樹脂やスチレン、スチレン-ブチルアクリレートなどの共重合樹脂を用いるのが好ましく、ポリエステル樹脂やスチレン

、スチレンーブチルアクリレートなどの共重合樹脂を20質量%以上含有するのがより好ましく、また、スチレン、スチレンーブチルアクリレート共重合体、スチレンーアクリル酸エステル共重合体、スチレンーメタクリル酸エステル共重合体なども好ましい。

【0082】

前記熱可塑性樹脂の具体例としては、例えば、(イ) エステル結合を有する樹脂、(ロ) ポリウレタン樹脂等、(ハ) ポリアミド樹脂等、(ニ) ポリスルホン樹脂等、(ホ) ポリ塩化ビニル樹脂等、(ヘ) ポリビニルブチラール等、(ト) ポリカプロラクトン樹脂等、(チ) ポリオレフィン樹脂等、などが挙げられる。

【0083】

前記(イ) エステル結合を有する樹脂としては、例えば、テレフタル酸、イソフタル酸、マレイン酸、フマル酸、フタル酸、アジピン酸、セバシン酸、アゼライン酸、アビエチン酸、コハク酸、トリメリット酸、ピロメリット酸等のジカルボン酸成分（これらのジカルボン酸成分にはスルホン酸基、カルボキシル基等が置換していてもよい）と、エチレングリコール、ジエチレングリコール、プロピレングリコール、ビスフェノールA、ビスフェノールAのジエーテル誘導体（例えば、ビスフェノールAのエチレンオキサイド2付加物、ビスフェノールAのプロピレンオキサイド2付加物など）、ビスフェノールS、2-エチルシクロヘキシルジメタノール、ネオペンチルグリコール、シクロヘキシリジメタノール、グリセリン等のアルコール成分（これらのアルコール成分には水酸基などが置換されていてもよい）との縮合により得られるポリエステル樹脂、ポリメチルメタクリレート、ポリブチルメタクリレート、ポリメチルアクリレート、ポリブチルアクリレート等のポリアクリル酸エステル樹脂又はポリメタクリル酸エステル樹脂、ポリカーボネット樹脂、ポリ酢酸ビニル樹脂、スチレンアクリレート樹脂、スチレンーメタクリル酸エステル共重合体樹脂、ビニルトルエンアクリレート樹脂等が挙げられる。

具体的には、特開昭59-101395号公報、同63-7971号公報、同63-7972号公報、同63-7973号公報、同60-294862号公報に記載のものなどが挙げられる。

【0084】

前記ポリエステル樹脂の市販品としては、例えば、東洋紡製のバイロン290、バイロン200、バイロン280、バイロン300、バイロン103、バイロンGK-140、バイロンGK-130；花王製のタフトンNE-382、タフトンU-5、ATR-2009、ATR-2010；ユニチカ製のエリーテルUE3500、UE3210、XA-8153；日本合成化学製のポリエスターTP-220、R-188等が挙げられる。

前記アクリル樹脂の市販品としては、三菱レイヨン（株）製ダイヤナールSE-5437、SE-5102、SE-5377、SE-5649、SE-5466、SE-5482、HR-169、124、HR-1127、HR-116、HR-113、HR-148、HR-131、HR-470、HR-634、HR-606、HR-607、LR-1065、574、143、396、637、162、469、216、BR-50、BR-52、BR-60、BR-64、BR-73、BR-75、BR-77、BR-79、BR-80、BR-83、BR-85、BR-87、BR-88、BR-90、BR-93、BR-95、BR-100、BR-101、BR-102、BR-105、BR-106、BR-107、BR-108、BR-112、BR-113、BR-115、BR-116、BR-117；積水化学工業製エスレックP SE-0020、SE-0040、SE-0070、SE-0100、SE-1010、SE-1035；三洋化成工業ハイマーST95、ST120；三井化学製FM601等が挙げられる。

【0085】

前記（ホ）ポリ塩化ビニル樹脂等としては、例えば、ポリ塩化ビニリデン樹脂、塩化ビニル-酢酸ビニル共重合体樹脂、塩化ビニル-プロピオン酸ビニル共重合体樹脂、等が挙げられる。

前記（ヘ）ポリビニルブチラール等としては、ポリオール樹脂、エチルセルロース樹脂、酢酸セルロース樹脂等のセルロース樹脂、等が挙げられる。市販品としては、電気化学工業（株）製、積水化学（株）製等が挙げられる。前記ポリビニルブチラールは、ポリビニルブチラール含有量が70質量%以上、平均重合度

500以上のものが好ましく、平均重合度1000以上のものがより好ましく、市販品としては、電気化学工業（株）製デンカブチラール3000-1、4000-2、5000A、6000C；積水化学（株）製エスレックBL-1、BL-2、BL-3、BL-S、BX-L、BM-1、BM-2、BM-5、BM-S、BH-3、BX-1、BX-7、等が挙げられる。

前記（ト）ポリカプロラクトン樹脂等としては、更に、スチレン-無水マレイン酸樹脂、ポリアクリロニトリル樹脂、ポリエーテル樹脂、エポキシ樹脂、フェノール樹脂、等が挙げられる。

前記（チ）ポリオレフィン樹脂等としては、ポリエチレン樹脂、ポリプロピレン樹脂等や、エチレンやプロピレン等のオレフィンと他のビニルモノマーとの共重合体樹脂や、アクリル樹脂、等が挙げられる。

【0086】

前記熱可塑性樹脂は、1種単独で使用してもよいし、2種以上でもよく、これらに加えて、これらの混合物、これらの共重合体等も使用することができる。

【0087】

前記熱可塑性樹脂としては、前記トナー受像層を形成した状態で後述のトナー受像層物性を満足できるものが好ましく、樹脂単独でも前述のトナー受像層物性を満足できるものがより好ましく、前述のトナー受像層物性の異なる樹脂を2以上併用することも好ましい。

【0088】

前記熱可塑性樹脂としては、トナーに用いられている熱可塑性樹脂に比べて分子量が大きいものが好ましい。ただし、該分子量はトナーに用いられている熱可塑性樹脂と、前記トナー受像層に用いられている樹脂との熱力学的特性の関係によつては、必ずしも前述の分子量の関係が好ましいとは限らない。例えば、トナーに用いられている熱可塑性樹脂より、前記トナー受像層に用いられている樹脂の軟化温度の方が高い場合、分子量は同等か、前記トナー受像層に用いられている樹脂の方が小さいことが好ましい場合がある。

前記熱可塑性樹脂として、同一組成の樹脂であつて互いに平均分子量が異なるものの混合物を用いるのも好ましい。また、トナーに用いられている熱可塑性樹

脂の分子量との関係としては、特開平8-334915号公報に開示されている関係が好ましい。

前記熱可塑性樹脂の分子量分布としては、前記トナーに用いられている熱可塑性樹脂の分子量分布よりも広いものが好ましい。

前記熱可塑性樹脂としては、特公平5-127413号公報、特開平8-194394号公報、特開平8-334915号公報、特開平8-334916号公報、特開平9-171265号公報、特開平10-221877号公報等に開示されている物性等を満足するものが好ましい。

【0089】

前記トナー受像層に使用される熱可塑性樹脂としては、以下の(i)～(ii)の理由により、水可溶性樹脂、水分散性樹脂等の水系樹脂であるのが好ましい。

(i) 塗布乾燥工程での有機溶剤の排出が無く、環境適性、作業適性に優れる。
 (ii) ワックス等の離型剤は、室温では溶剤に溶解し難いものが多く、使用に際して予め溶媒（水、有機溶剤）に分散することが多い。また、水分散形態の方が安定でかつ製造工程適性優れる。更に、水系塗布の方が塗布乾燥の過程でワックスが表面にブリーディングし易く、離型剤の効果（耐オフセット性、耐接着性等）を得易い。

【0090】

前記水系樹脂としては、水溶性樹脂、水分解性樹脂であれば、その組成、結合構造、分子構造、分子量、分子量分布、形態を特定するものではない。ポリマーの水系化基の例としては、スルホン酸基、水酸基、カルボン酸基、アミノ基、アミド基、又はエーテル基等が挙げられる。

前記水溶性樹脂の例としては、リサーチ・ディスクロージャー17, 643号の26頁、同18, 716号の651頁、同307, 105号の873～874頁及び特開昭64-13546号公報の(71)頁～(75)頁に記載されたものが挙げられる。

具体的には、例えば、ビニルピロリドン-酢酸ビニル共重合体、スチレン-ビニルピロリドン共重合体、スチレン-無水マレイン酸共重合体、水溶性ポリエス

テル、水溶性アクリル、水溶性ポリウレタン、水溶性ナイロン、水溶性エポキシ樹脂を使用することができる。また、ゼラチンは、種々の目的に応じて石灰処理ゼラチン、酸処理ゼラチン、カルシウム等の含有量を減らした所謂脱灰ゼラチンから選択すればよく、組み合わせて用いることも好ましい。市販品では水溶性ポリエステルとして瓦応化学工業（株）製の各種プラスコート、大日本インキ化学工業製ファインテックスESシリーズ、水溶性アクリルとして日本純薬製ジュリマーATシリーズ、大日本インキ化学工業製ファインテックス6161、K-96、星光化学工業製ハイロスNL-1189、BH-997L等が挙げられる。

【0091】

また、水分散性樹脂としては、水分散アクリル樹脂、水分散ポリエステル樹脂、水分散ポリスチレン系樹脂、水分散ウレタン樹脂等の水分散型樹脂；アクリル樹脂エマルジョン、ポリ酢酸ビニルエマルジョン、SBR（スチレン・ブタジエン・ゴム）エマルジョン等のエマルジョン、上記（イ）～（チ）の熱可塑性樹脂を水分散した樹脂やエマルジョン、或いは、これらの共重合体、混合物、及びカチオン変性のもの等の中から適宜選択し、2種以上を組み合わせることができる。

前記水分散性樹脂の市販品としては、例えば、ポリエステル系では東洋紡製バイロナールシリーズや、高松油脂製ペスレジンAシリーズ、花王製タフトンUEシリーズ、日本合成ポリエスターWRシリーズ、ユニチカ製エリエールシリーズ、アクリル系では星光化学工業製ハイロスXE、KE、PEシリーズ、日本純薬製ジュリマーETシリーズ等が挙げられる。

用いるポリマーの成膜温度（MFT）は、プリント前の保存に対しては、室温以上が好ましく、トナー粒子の定着に対しては100℃以下が好ましい。

【0092】

本発明においては、前記熱可塑性樹脂として、下記（1）～（4）の特性を満たす自己分散型水系ポリエステル樹脂エマルジョンを用いることが好ましい。これは、界面活性剤を使用しない自己分散型なので、高湿雰囲気でも吸湿性が低く、水分による軟化点低下が少なく、定着時のオフセット発生、保存時のシート間接着故障の発生を抑制できる。また、水系であるため環境性、作業性に優れてい

る。更に、凝集エネルギーが高い分子構造をとりやすいポリエステル樹脂を用いているので、保存環境では十分な硬度を有しながら、電子写真の定着工程では低弾性（低粘性）の溶融状態となり、トナーが受像層に埋め込まれて十分な高画質が達成可能となる。

（1）数平均分子量（M_n）は5000～10000が好ましく、5000～7000がより好ましい。

（2）分子量分布（重量平均分子量／数平均分子量）は≤4が好ましく、M_w／M_n≤3がより好ましい。

（3）ガラス転移温度（T_g）は40～100℃が好ましく、50～80℃がより好ましい。

（4）体積平均粒子径は20～200nmφが好ましく、40～150mmφがより好ましい。

【0093】

—離型剤—

本発明の離型剤は、トナー受像層のオフセットを防ぐため、トナー受像層に配合される。本発明で使用される離型剤は、定着温度において加熱・融解し、トナー受像層表面に析出してトナー受像層表面に偏在し、更に、冷却・固化されることによってトナー受像層表面に離型剤材料の層を形成するものであれば、その種類は限定されない。

このような作用効果を奏する離型剤としては、シリコーン化合物、フッ素化合物、ワックス及びマット剤からなる群より選択される少なくとも1種以上の離型剤が挙げられる。好ましくは、シリコーンオイル、ポリエチレンワックス、カルナバワックス、及びシリコーン粒子並びにポリエチレンワックス粒子からなる群より選択される少なくとも1種以上の離型剤が挙げられる。

【0094】

具体的には、本発明に使用される離型剤として、例えば、幸書房「改訂 ワックスの性質と応用」や、日刊工業新聞社発行のシリコーンハンドブック記載の化合物を用いることができる。また、特公昭59-38581号、特公平4-32380号、特許第2838498号、同2949558号、特開昭50-117

433号、同52-52640号、同57-148755号、同61-6205
6号、同61-62057号、同61-118760号、特開平2-42451
号、同3-41465号、同4-212175号、同4-214570号、同4
-263267号、同5-34966号、同5-119514号、同6-595
02号、同6-161150号、同6-175396号、同6-219040号
、同6-230600号、同6-295093号、同7-36210号、同7-
43940号、同7-56387号、同7-56390号、同7-64335号
、同7-199681号、同7-223362号、同7-287413号、同8
-184992号、同8-227180号、同8-248671号、同8-24
8799号、同8-248801号、同8-278663号、同9-15273
9号、同9-160278号、同9-185181号、同9-319139号、
同9-319143号、同10-20549号、同10-48889号、同10
-198069号、同10-207116号、同11-2917号、同11-4
4969号、同11-65156号、同11-73049号、同11-1945
42号各公報に記載のトナーに用いられているシリコーン系化合物、フッ素化合物又はワックスも好ましく用いることができる。また、これら化合物を複数組合わせて使用することもできる。

【0095】

具体的には、シリコーン系化合物としては、シリコーンオイルとして無変性シリコーンオイル（具体的には、ジメチルシロキサンオイルや、メチルハイドロジエンシリコーンオイル、フェニルメチルシリコーンオイル、市販品として信越化学工業製KF-96、KF-96L、KF-96H、KF-99、KF-50、KF-54、KF-56、KF-965、KF-968、KF-994、KF-995、HIVAC F-4、F-5；東レ・ダウコーニング・シリコーン製SH200、SH203、SH490、SH510、SH550、SH710、SH704、SH705、SH7028A、SH7036、SM7060、SM7001、SM7706、SH7036、SH8710、SH1107、SH8627；東芝シリコーン製TSF400、TSF401、TSF404、TSF405、TSF431、TSF433、TSF434、TSF437、TSF45

0シリーズ、TSF451シリーズ、TSF456、TSF458シリーズ、TSF483、TSF484、TSF4045、TSF4300、TSF4600、YF33シリーズ、YF-3057、YF-3800、YF-3802、YF-3804、YF-3807、YF-3897、XF-3905、XS69-A1753、TEX100、TEX101、TEX102、TEX103、TEX104、TSW831、など)、アミノ変性シリコーンオイル(市販品として信越化学工業製KF-857、KF-858、KF-859、KF-861、KF-864、KF-880、東レ・ダウコーニング・シリコーン製SF8417、SM8709、東芝シリコーン製TSF4700、TSF4701、TSF4702、TSF4703、TSF4704、TSF4705、TSF4706、TEX150、TEX151、TEX154など)、カルボキシ変性シリコーンオイル(市販品として東レ・ダウコーニング・シリコーン製BY16-880、東芝シリコーン製TSF4770、XF42-A9248など)、カルビノール変性シリコーンオイル(市販品として東芝シリコーン製XF42-B0970など)、ビニル変性シリコーンオイル(市販品として東芝シリコーン製XF40-A1987など)、エポキシ変性シリコーンオイル(市販品として東レ・ダウコーニング・シリコーン製SF8411、SF8413；東芝シリコーン製TSF3965、TSF4730、TSF4732、XF42-A4439、XF42-A4438、XF42-A5041、XC96-A4462、XC96-A4463、XC96-A4464、TEX170など)、ポリエーテル変性シリコーンオイル(市販品として信越化学工業製KF-351(A)、KF-352(A)、KF-353(A)、KF-354(A)、KF-355(A)、KF-615(A)、KF-618、KF-945(A)；東レ・ダウコーニング・シリコーン製SH3746、SH3771、SF8421、SF8419、SH8400、SF8410；東芝シリコーン製TSF4440、TSF4441、TSF4445、TSF4446、TSF4450、TSF4452、TSF4453、TSF4460など)、シラノール変性シリコーンオイル、メタクリル変性シリコーンオイル、メルカプト変性シリコーンオイル、アルコール変性シリコーンオイル(市販品として東レ・ダウコーニング・シリコーン製SF8427、S

F8428、東芝シリコーン製TSF4750、TSF4751、XF42-B
0970など)、アルキル変性シリコーンオイル(市販品として東レ・ダウコーニング・シリコーン製SF8416、東芝シリコーン製TSF410、TSF411、TSF4420、TSF4421、TSF4422、TSF4450、XF42-334、XF42-A3160、XF42-A3161など)、フッ素変性シリコーンオイル(市販品として東レ・ダウコーニング・シリコーン製FS1265、東芝シリコーン製FQF501など)、シリコーンゴムやシリコーン微粒子(市販品として東レ・ダウコーニング・シリコーン製SH851U、SH745U、SH55UA、SE4705U、SH502UA&B、SRX539U、SE6770U-P、DY38-038、DY38-047、トレフィルF-201、F-202、F-250、R-900、R-902A、E-500、E-600、E-601、E-506、BY29-119；東芝シリコーン製トスパール105、120、130、145、240、3120など)、シリコーン変性樹脂(具体的には、オレフィン樹脂やポリエステル樹脂、ビニル樹脂、ポリアミド樹脂、セルロース樹脂、フェノキシ樹脂、塩化ビニル-酢酸ビニル樹脂、ウレタン樹脂、アクリル樹脂、スチレン-アクリル樹脂などやこれらの共重合樹脂をシリコーン変性した化合物など、市販品として大日精化製ダイアロマーSP203V、SP712、SP2105、SP3023；日本油脂製モディパーFS700、FS710、FS720、FS730、FS770；東亜合成化学製サイマックUS-270、US-350、US-352、US-380、US-413、US-450、レゼダGP-705、GS-30、GF-150、GF-300；東レ・ダウコーニング・シリコーン製SH997、SR2114、SH2104、SR2115、SR2202、DCI-2577、SR2317、SE4001U、SRX625B、SRX643、SRX439U、SRX488U、SH804、SH840、SR2107、SR2115；東芝シリコーン製YR3370、TSR1122、TSR102、TSR108、TSR116、TSR117、TSR125A、TSR127B、TSR144、TSR180、TSR187、YR47、YR3187、YR3224、YR3232、YR3270、YR3286、YR3340、YR3365、TEX152、T

EX153、TEX171、TEX172など）、反応性シリコーン化合物（具体的には、付加反応型や、過酸化物硬化型、紫外線硬化型があり、市販品として東芝シリコーン製TSR1500、TSR1510、TSR1511、TSR1515、TSR1520、YR3286、YR3340、PSA6574、TPR6500、TPR6501、TPR6600、TPR6702、TPR6604、TPR6700、TPR6701、TPR6705、TPR6707、TPR6708、TPR6710、TPR6712、TPR6721、TPR6722、UV9300、UV9315、UV9425、UV9430、XS56-A2775、XS56-A2982、XS56-A3075、XS56-A3969、XS56-A5730、XS56-A8012、XS56-B1794、SL6100、SM3000、SM3030、SM3200、YSR3022など）などが挙げられる。

【0096】

前記フッ素化合物としては、フッ素オイル（市販品としてダイキン工業製ダイフロイル#1、#3、#10、#20、#50、#100、ユニダイントG-440、TG-452、TG-490、TG-560、TG-561、TG-590、TG-652、TG-670U、TG-991、TG-999、TG-3010、TG-3020、TG-3510；トーケムプロダクツ製MF-100、MF-110、MF-120、MF-130、MF-160、MF-160E；旭硝子製サーフロンS-111、S-112、S-113、S-121、S-131、S-132、S-141、S-145；三井フロロケミカル製FC-430、FC-431など）、フッ素ゴム（市販品として東レ・ダウコーニング・シリコーン製LS63Uなど）、フッ素変性樹脂（市販品として日本油脂製モディパーF200、F220、F600、F2020、F3035；大日精化製ダイアロマーFF203、FF204；旭硝子製サーフロンS-381、S-383、S-393、SC-101、SC-105、KH-40、SA-100；トーケムプロダクツ製EF-351、EF-352、EF-801、EF-802、EF-601、TFE、TFEA、TFEMA、PDFOH；住友3M製THV-200Pなど）、フッ素スルホン酸化合物（市販品としてトーケムプロダクツ

製EF-101、EF-102、EF-103、EF-104、EF-105、EF-112、EF-121、EF-122A、EF-122B、EF-122C、EF-123A、EF-123B、EF-125M、EF-132、EF-135M、EF-305、FBSA、KFBS、LFBSなど）、フルオロスルホン酸、フッ素酸化合物や塩（具体的には無水フッ酸、稀フッ酸、ホウフッ酸、ホウフッ化亜鉛、ホウフッ化ニッケル、ホウフッ化錫、ホウフッ化鉛、ホウフッ化銅、ケイフッ酸、フッ化チタン酸カリウム、パーフルオロカプリル酸、パーフルオロオクタン酸アンモニウムなど）、無機フッ化物（具体的にはフッ化アルミニウム、ケイフッ化カリウム、フッ化ジルコン酸カリウム、フッ化亜鉛4水和物、フッ化カルシウム、フッ化リチウム、フッ化バリウム、フッ化錫、フッ化カリウム、酸性フッ化カリウム、フッ化マグネシウム、フッ化チタン酸、フッ化ジルコン酸、六フッ化リン酸アンモニウム、六フッ化リン酸カリウムなど）などが挙げられる。

【0097】

前記ワックスとしては、石油ワックスとして、パラフィンワックス（市販品として日本精鑄製パラフィンワックス155、150、140、135、130、125、120、115、HNP-3、HNP-5、HNP-9、HNP-10、HNP-11、HNP-12、HNP-14G、SP-0160、SP-0145、SP-1040、SP-1035、SP-3040、SP-3035、NPS-8070、NPS-L-70、OX-2151、OX-2251、EMUSTAR-0384、EMUSTAR-0136；中京油脂製セロゾール686、428、651-A、A、H-803、B-460、E-172、866、K-133、ハイドリンD-337、E-139；日石三菱石油製125°パラフィン、125°FD、130°パラフィン、135°パラフィン、135°H、140°パラフィン、140°N、145°パラフィン、パラフィンワックスMなど）；マイクロクリスタリンワックス（市販品として日本精鑄製Hi-Mic-2095、Hi-Mic-3090、Hi-Mic-1080、Hi-Mic-1070、Hi-Mic-2065、Hi-Mic-1045、Hi-Mic-2045、EMUSTAR-0001、EMUSTAR-042X；中京油脂

製セロゾール967、M；日石三菱石油製155マイクロワックス、180マイクロワックスなど）、ペトロラタム（市販品として日本精鑛製OX-1749、OX-0450、OX-0650B、OX-0153、OX-261BN、OX-0851、OX-0550、OX-0750B、JP-1500、JP-056R、JP-011Pなど）；フィッシャートロプシュワックス（市販品として日本精鑛製FT100、FT-0070など）；酸アミド化合物或いは酸イミド化合物（具体的には、ステアリン酸アミド、無水フタル酸イミドなど、市販品として中京油脂製セロゾール920、B-495、ハイミクロンG-270、G-110、ハイドリンD-757など）などが挙げられる。

【0098】

変性ワックスとしては、アミン変性ポリプロピレン（市販品として三洋化成製QN-7700）、アクリル酸変性やフッ素変性、オレフィン変性ワックス、ウレタン型ワックス（市販品として日本精鑛製NPS-6010、HAD-5090など）、アルコール型ワックス（市販品として日本精鑛製NPS-9210、NPS-9215、OX-1949、XO-020Tなど）などが挙げられる。

【0099】

水素化ワックスとしては、硬化ひまし油（市販品として伊藤製油製カスターワックスなど）、ヒマシ油誘導体（市販品として伊藤製油製の脱水ヒマシ油DCO、DCO-Z-1、DCO-Z-3、ヒマシ油脂肪酸CO-FA、リシノレイン酸、脱水ヒマシ油脂肪酸DCO-FA、脱水ヒマシ油脂肪酸エポキシエステルD-4エステル、ヒマシ油系ウレタンアクリレートCA-10、CA-20、CA-30、ヒマシ油誘導体MINERASOL S-74、S-80、S-203、S-42X、S-321、特殊ヒマシ油系縮合脂肪酸MINERASOL RC-2、RC-17、RC-55、RC-335、特殊ヒマシ油系縮合脂肪酸エステルMINERASOL LB-601、LB-603、LB-604、LB-702、LB-703、#11、L-164、など）、ステアリン酸（市販品として伊藤製油製の12-ヒドロキシステアリン酸など）、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ベヘニン酸、セバシン酸（市販品として伊藤製油製のセバシン酸など）、ウンデシレン酸（市販品として伊藤製油製のウンデシレン酸な

ど)、ヘプチル酸（市販品として伊藤製油製のヘプチル酸など）、マレイン酸、高度マレイン化油（市販品として伊藤製油製のHIMALEIN DC-15、LN-10、00-15、DF-20、SF-20など）、吹込油（市販品として伊藤製油製のセルボノール#10、#30、#60、R-40、S-7など）、シクロペンタジエン化油（市販品として伊藤製油製のCPオイル、CPオイル-Sなど）などの合成ワックス等が挙げられる。

【0100】

天然ワックスとしては、植物系ワックス及び鉱物系ワックスの少なくともいずれかであるのが好ましく、特に植物系ワックスが好ましい。また該天然ワックスとしては、特に、前記トナー受像層の熱可塑性樹脂として水系の熱可塑性樹脂を用いた場合の相溶性等の点で、水分散型ワックスが好ましい。

【0101】

前記植物系ワックスとしては、例えば、カルナバワックス（市販品として日本精鑛製EMUSTAR-0413、中京油脂製セロゾール524など）、ヒマシ油（市販品として伊藤製油製精製ヒマシ油など）、ナタネ油、大豆油、木ろう、綿ろう、ライスワックス、サトウキビワックス、キャンデリラワックス、ジャパンワックス、ホホバ油、動物系ワックスとして蜜蠟、ラノリン、鯨蠟、ステ蠟（鯨油）、及び、羊毛蠟等が挙げられる。これらの中でも、特に、耐オフセット性、耐接着性、通紙性、光沢感が優れ、ひび割れが生じ難く、高画質の画像を形成可能な電子写真用受像シートを提供可能である点で、融点が70～95℃のカルナバワックスが特に好ましい。

【0102】

前記鉱物系ワックスとしては、例えば、モンタンワックス、モンタン系エステルワックス、オゾケライト、セレシン等の天然ワックスや、脂肪酸エステル（市販品として新日本理化製サンソサイザーDOA、AN-800、DINA、DIDA、DOZ、DOS、TOTM、TITM、E-PS、nE-PS、E-PO、E-4030、E-6000、E-2000H、E-9000H、TCP、C-1100など）、合成炭化水素としてポリエチレンワックス（市販品として中京油脂製ポリロンA、393、H-481；三洋化成製サンワックスE-310

、E-330、E-250P、LEL-250、LEL-800、LEL-400Pなど）、ポリプロピレンワックス（市販品として三洋化成製ビスコール330-P、550-P、660-P）等が挙げられる。これらの中でも、特に、耐オフセット性、耐接着性、通紙性、光沢感が優れ、ひび割れが生じ難く、高画質の画像を形成可能な電子写真用受像シートを提供可能である点で、融点が70～95℃のモンタンワックスが特に好ましい。

【0103】

前記天然ワックスの前記トナー受像層（表面）における含有量（g/m²）としては、0.1～4 g/m²が好ましく、0.2～2 g/m²が好ましい。

前記含有量が、0.1 g/m²未満であると、耐オフセット性、耐接着性が特に不充分となることがある一方、4 g/m²を超えると、ワックス量が多過ぎ、形成される画像の画質が劣ることがある。

【0104】

前記天然ワックスの融点（℃）としては、特に、耐オフセット性、及び、通紙性の点で、70～95℃が好ましく、75～90℃がより好ましい。

【0105】

前記マット剤としては、種々の公知のものが挙げられる。マット剤として用いられる固体粒子は、無機粒子と有機粒子とに分類できる。無機マット剤の材料としては、具体的には、酸化物（例えば、二酸化ケイ素、酸化チタン、酸化マグネシウム、酸化アルミニウム）、アルカリ土類金属塩（例えば、硫酸バリウム、炭酸カルシウム、硫酸マグネシウム）、ハロゲン化銀（例えば、塩化銀、臭化銀）及びガラスが挙げられる。

【0106】

前記無機マット剤としては、例えば、西独特許2529321号、英国特許760775号、同1260772号、米国特許1201905号、同2192241号、同3053662号、同3062649号、同3257206号、同3322555号、同3353958号、同3370951号、同3411907号、同3437484号、同3523022号、同3615554号、同3635714号、同3769020号、同4021245号、同4029504号の

各明細書に記載されたものが挙げられる。

【0107】

前記有機マット剤の材料には、デンプン、セルロースエステル（例えば、セルロースアセテートプロピオネート）、セルロースエーテル（例えば、エチルセルロース）及び合成樹脂が含まれる。合成樹脂は、水不溶性又は水難溶性であることが好ましい。水不溶性又は水難溶性の合成樹脂の例には、ポリ（メタ）アクリル酸エステル（例えば、ポリアルキル（メタ）アクリレート、ポリアルコキシアアルキル（メタ）アクリレート、ポリグリシジル（メタ）アクリレート）、ポリ（メタ）アクリルアミド、ポリビニルエステル（例えば、ポリ酢酸ビニル）、ポリアクリロニトリル、ポリオレフィン（例えば、ポリエチレン）、ポリスチレン、ベンゾグアナミン樹脂、ホルムアルデヒド縮合ポリマー、エポキシ樹脂、ポリアミド、ポリカーボネート、フェノール樹脂、ポリビニルカルバゾール及びポリ塩化ビニリデンが含まれる。

以上のポリマーに使用されるモノマーを組み合わせたコポリマーを用いてよい。

【0108】

前記コポリマーの場合、少量の親水性の繰り返し単位が含まれていてもよい。親水性の繰り返し単位を形成するモノマーの例には、アクリル酸、メタクリル酸、 α 、 β -不飽和ジカルボン酸、ヒドロキシアルキル（メタ）アクリレート、スルホアルキル（メタ）アクリレート及びスチレンスルホン酸が含まれる。

有機マット剤としては、例えば、英国特許1055713号、米国特許1939213号、同2221873号、同2268662号、同2322037号、同2376005号、同2391181号、同2701245号、同2992101号、同3079257号、同3262782号、同3443946号、同3516832号、同35339344号、同3591379号、同3754924号、同3767448号の各明細書、特開昭49-106821号公報、特開昭57-14835号公報に記載されたものが挙げられる。

また、二種類以上の固体粒子を併用してもよい。固体粒子の平均粒径は、例えば、 $1 \sim 100 \mu\text{m}$ 、好ましくは、 $4 \sim 30 \mu\text{m}$ であることが適当である。固体

粒子の使用量は、0.01～0.5 g/m²、好ましくは、0.02～0.3 g/m²であることが適當である。

【0109】

本発明のトナー受像層に添加される離型剤としては、これらの誘導体や、酸化物、精製品、混合物を用いることもできる。また、これらは、反応性の置換基を有していてもよい。

【0110】

前記離型剤の融点 (°C) としては、特に耐オフセット性、及び、通紙性の点で、70～95 °Cが好ましく、75～90 °Cがより好ましい。

また前記離型剤としては、特に、前記トナー受像層の熱可塑性樹脂として水系の熱可塑性樹脂を用いた場合の相溶性等の点で、水分散型の離型剤が好ましい。

【0111】

前記離型剤の、前記トナー受像層における含有量としては、0.1～10 質量%が好ましく、0.3～8.0 質量%がより好ましく、0.5～5.0 質量%が更に好ましい。

【0112】

—その他の成分—

前記その他の成分としては、トナー受像層の熱力学的特性を改良する目的で添加される各種添加剤、例えば、着色剤、可塑剤、フィラー、架橋剤、帶電制御剤、乳化物、分散物等が挙げられる。これらのトナー受像層に含有されるその他の成分としては、画像定着時におけるトナー受像層の熱伝導性（低熱伝導性）に優れる点で、中空粒子形状であるのが好ましく、特に、前記顔料が中空粒子形状であるのが好ましい。

【0113】

(着色剤)

前記着色剤としては、蛍光増白剤、白色顔料、有色顔料、染料等が挙げられる。

前記蛍光増白剤は、近紫外部に吸収を持ち、400～500 nmに蛍光を発する化合物で、公知の蛍光増白剤が特に制限なく各種使用することができる。該蛍

光増白剤としては、K. VeenRataraman編 “The Chemistry of Synthetic Dyes” V巻8章に記載されている化合物を好適に挙げることができる。具体的には、スチルベン系化合物や、クマリン系化合物、ビフェニル系化合物、ベンゾオキサゾリン系化合物、ナフトルイミド系化合物、ピラゾリン系化合物、カルボスチリル系化合物などが挙げられる。それらの例としては、住友化学製ホワイトフルファーP S N、P H R、H C S、P C S、B；Ciba-Geigy社製UVITEX-O Bなどが挙げられる。

【0114】

前記白色顔料としては、フィラーの項で述べた無機顔料（例えば、酸化チタン、炭酸カルシウム他）を用いることができる。有色顔料としては、特開昭63-44653号公報等に記載されている各種顔料及びアゾ顔料（例えば、アゾレキ；カーミン6B、レッド2B、不溶性アゾ；モノアゾイエロ、ジスアゾイエロ、ピラゾロオレンジ、バルカンオレンジ、縮合アゾ系；クロモフタルイエロ、クロモフタルレッド）、多環式顔料（例えば、フタロシアニン系；銅フタロシアニンブルー、銅フタロシアニングリーン、シオキサジン系；ジオキサジンバイオレット、イソインドリノン系；イソインドリノンイエロ、スレン系；ペリレン、ペリノン、フラバントロン、チオインジゴ、レーキ顔料（例えば、マラカイトグリーン、ローダミンB、ローダミンG、ピクトリアブルーB）又無機顔料（例えば、酸化物、二酸化チタン、ベンガラ、硫酸塩；沈降性硫酸バリウム、炭酸塩；沈降性炭酸カルシウム、硅酸塩；含水硅酸塩、無水硅酸塩、金属粉；アルミニウム粉、ブロンズ粉、亜鉛末、カーボンブラック、黄鉛、紺青等が挙げられる。

これらは、1種単独で使用してもよく、2種以上を併用してもよい。これらの中でも、前記顔料としては、特に酸化チタンが好ましい。

【0115】

前記顔料の形状としては、特に制限はないが、画像定着時の伝熱性（低熱伝導性）に優れる点で、中空粒子形状であるのが好ましい。

【0116】

前記染料としては、公知の種々の染料を用いることができる。

油溶性染料としては、アントラキノン系化合物、アゾ系化合物などが挙げられ

る。

水不溶性染料の具体例としては、C. I. Vatヴァイオレット1、C. I. Vatヴァイオレット2、C. I. Vatヴァイオレット9、C. I. Vatヴァイオレット13、C. I. Vatヴァイオレット21、C. I. Vatブルー1、C. I. Vatブルー3、C. I. Vatブルー4、C. I. Vatブルー6、C. I. Vatブルー14、C. I. Vatブルー20、C. I. Vatブルー35等の建染染料、C. I. ディスパーズヴァイオレット1、C. I. ディスパーズヴァイオレット4、C. I. ディスパーズヴァイオレット10、C. I. ディスパーズブルー3、C. I. ディスパーズブルー7、C. I. ディスパーズブルー58等の分散染料、C. I. ソルベントヴァイオレット13、C. I. ソルベントヴァイオレット14、C. I. ソルベントヴァイオレット21、C. I. ソルベントヴァイオレット27、C. I. ソルベントブルー11、C. I. ソルベントブルー12、C. I. ソルベントブルー25、C. I. ソルベントブルー55等の油溶性染料が挙げられる。

【0117】

また、銀塩写真で用いられているカラードカプラーも好ましく用いることができる。

【0118】

前記着色剤の、前記トナー受像層（表面）における含有量（g/m²）としては、0.1～8 g/m²が好ましく、0.5～5 g/m²がより好ましい。

前記着色剤の含有量が0.1 g/m²に満たないと、トナー受像層における光透過率が高くなり、一方、着色剤の含有量が8 g/m²を超えると、ヒビ割れ、耐接着等の取り扱い性が悪いことがある。

【0119】

(可塑剤)

前記可塑剤としては、公知の樹脂用の可塑剤を特に制限なく使用することができる。該可塑剤は、トナーを定着する時の熱及び／又は圧力によって、トナー受像層が流動又は柔軟化するのを調整する機能を有する。

前記可塑剤としては、「化学便覧」（日本化学会編、丸善）や、「可塑剤－そ

の理論と応用ー」（村井孝一編著、幸書房）や、「可塑剤の研究 上」「可塑剤の研究 下」（高分子化学協会編）や、「便覧 ゴム・プラスチック配合薬品」（ラバーダイジェスト社編）等を参考にして選択することができる。

【0120】

前記可塑剤は、高沸点有機溶剤や熱溶剤などとして記載されているものもあるが、例えば、特開昭59-83154号、同59-178451号、同59-178453号、同59-178454号、同59-178455号、同59-178457号、同62-174754号、同62-245253号、同61-209444号、同61-200538号、同62-8145号、同62-9348号、同62-30247号、同62-136646号、同62-174754号、同62-245253号、同61-209444号、同61-200538号、同62-8145号、同62-9348号、同62-30247号、同62-136646号、特開平2-235694号各公報等に記載されているようなエステル類（例えば、フタル酸エステル類、リン酸エステル類、脂肪酸エステル類、アビエチン酸エステル類、アジピン酸エステル類、セバシン酸エステル類、アゼライン酸エステル類、安息香酸エステル類、酪酸エステル類、エポキシ化脂肪酸エステル類、グリコール酸エステル類、プロピオン酸エステル類、トリメリット酸エステル類、クエン酸エステル類、スルホン酸エステル類、カルボン酸エステル類、コハク酸エステル類、マレイン酸エステル類、フマル酸エステル類、フタル酸エステル類、ステアリン酸エステル類など）、アミド類（例えば、脂肪酸アミド類、スルホアミド類など）、エーテル類、アルコール類、ラクトン類、ポリエチレンオキシ類などの化合物が挙げられる。

前記可塑剤は、樹脂に混合して使用することができる。

【0121】

前記可塑剤としては、比較的低分子量のポリマーを用いることができる。この場合、該可塑剤の分子量としては、可塑化されるべきバインダー樹脂の分子量より低いものが好ましく、分子量が15000以下、好ましくは、5000以下であるものが適当である。また、ポリマー可塑剤の場合、可塑化されるべきバインダー樹脂と同種のポリマーであることが好ましい。例えば、ポリエステル樹脂の

可塑化には、低分子量のポリエステルが好ましい。更にオリゴマーも可塑剤として用いることができる。上記に挙げた化合物以外にも市販品として、例えば、旭電化工業製アデカサイザーPN-170、PN-1430；C. P. HALL社製品PARAPEX-G-25、G-30、G-40；理化ハーキュレス製品エステルガム8L-JA、エステルR-95、ペンタリン4851、FK115、4820、830、ルイゾール28-JA、ピコラスチックA75、ピコテックスLC、クリスタレックス3085等が挙げられる。

【0122】

前記可塑剤は、トナー粒子がトナー受像層に埋め込まれる際に生じる応力や歪み（弾性力や粘性などの物理的な歪み、分子やバインダー主鎖やペンドント部分などの物質収支による歪み等）を緩和するために任意に使用することができる。

前記可塑剤は、トナー受像層中において、ミクロに分散された状態でもよいし、海島状にミクロに相分離した状態でもよいし、バインダー等の他の成分と充分に混合溶解した状態でもよい。

前記可塑剤の、前記トナー受像層における含有量としては、0.001～90質量%が好ましく、0.1～60質量%がより好ましく、1～40質量%が更に好ましい。

前記可塑剤は、スペリ性（摩擦力低下による搬送性向上）の調整や、定着部オフセット（定着部へのトナーや層の剥離）の改良、カールバランスの調整、帯電調整（トナー静電像の形成）等の目的で使用してもよい。

【0123】

（フィラー）

前記フィラーとしては、有機又は無機のフィラーが挙げられ、バインダー樹脂用の補強剤や、充填剤、強化材として公知のものが用いることができる。該フィラーとしては、「便覧 ゴム・プラスチック配合薬品」（ラバーダイジェスト社編）、「新版 プラスチック配合剤 基礎と応用」（大成社）、「フィラーハンドブック」（大成社）等を参考にして選択することができる。

また、前記フィラーとして、各種無機フィラー（又は顔料）を用いることができる。無機顔料としては、例えば、シリカ、アルミナ、二酸化チタン、酸化亜鉛

、酸化ジルコニウム、雲母状酸化鉄、鉛白、酸化鉛、酸化コバルト、ストロンチウムクロメート、モリブデン系顔料、スメクタイト、酸化マグネシウム、酸化カルシウム、炭酸カルシウム、ムライト等が挙げられる。フィラーとしては、特にシリカや、アルミナが好ましい。これらのフィラーは、1種単独で使用してもよく、2種以上を併用してもよい。また前記フィラーとしては、粒径の小さいものが好ましい。粒径が大きいと、トナー受像層の表面が粗面化し易い。

【0124】

前記シリカには、球状シリカと無定形シリカが含まれる。該シリカは、乾式法、湿式法又はエアロゲル法により合成できる。疎水性シリカ粒子の表面を、トリメチルシリル基又はシリコーンで表面処理してもよい。シリカとしては、コロイド状シリカが好ましい。シリカの平均粒径としては、4～120nmが好ましく、4～90nmがより好ましい。

前記シリカは、多孔質であるのが好ましい。多孔質シリカの平均孔径は、50～500nmが好ましい。また、多孔質シリカの質量当りの平均孔容積は、例えば、0.5～3ml/gが好ましい。

【0125】

前記アルミナには、無水アルミナ及びアルミナ水和物が含まれる。無水アルミナの結晶型としては、 α 、 β 、 γ 、 δ 、 ϵ 、 η 、 θ 、 κ 、 ρ 又は χ を用いることができる。無水アルミナよりもアルミナ水和物の方が好ましい。アルミナ水和物としては、一水和物又は三水和物を用いることできる。一水和物には、擬ベーマイト、ベーマイト及びダイアスポアが含まれる。三水和物には、ジブサイト及びバイヤライトが含まれる。アルミナの平均粒径としては、4～300nmが好ましく、4～200nmがより好ましい。アルミナは、多孔質であるのが好ましい。多孔質アルミナの平均孔径としては、50～500nmが好ましい。多孔質アルミナの質量当りの平均孔容積としては、0.3～3ml/g程度が好ましい。

【0126】

前記アルミナ水和物は、アルミニウム塩溶液にアンモニアを加えて沈殿させるゾルゲル法又はアルミニン酸アルカリを加水分解する方法により合成できる。無水アルミナは、アルミナ水和物を加熱により脱水することで得ることができる。

前記フィラーは、添加する層のバインダーの乾燥質量に基づいて、5～200
0質量%であることが好ましい。

【0127】

(架橋剤)

前記架橋剤は、トナー受像層の保存安定性や、熱可塑性等を調整するために配合することができる。このような架橋剤としては、反応基としてエポキシ基や、イソシアネート基、アルデヒド基、活性ハロゲン基、活性メチレン基、アセチレン基、その他公知の反応基を2個以上分子内に有する化合物が用いられる。

【0128】

前記架橋剤として、これとは別に、水素結合や、イオン結合、配位結合等により結合を形成することが可能な基を2個以上有する化合物も用いることができる。

前記架橋剤としては、樹脂用のカップリング剤や、硬化剤、重合剤、重合促進剤、凝固剤、造膜剤、造膜助剤等として公知の化合物を用いることができる。カップリング剤の例としては、例えば、クロロシラン類や、ビニルシラン類、エポキシシラン類、アミノシラン類、アルコキシアルミニウムキレート類、チタネートカップリング剤などが挙げられる他、「便覧 ゴム・プラスチック配合薬品」(ラバーダイジェスト社編)等に挙げられた公知のものを用いることができる。

【0129】

(帯電制御剤)

本発明のトナー受像層には、トナーの転写や、付着等を調整したり、トナー受像層の帯電接着を防止するために、帯電調整剤を含有させることが好ましい。前記帯電調整剤としては、従来から公知の各種帯電調整剤を使用することができる。このような帯電調整剤としては、例えば、カチオン界面活性剤や、アニオン系界面活性剤、両性界面活性剤、ノニオン系界面活性剤等の界面活性剤等の他、高分子電解質、導電性金属酸化物等を使用できる。例えば、第4級アンモニウム塩や、ポリアミン誘導体、カチオン変性ポリメチルメタクリレート、カチオン変性ポリスチレン等のカチオン系帯電防止剤、アルキルホスフェート、アニオン系ポリマー等のアニオン系帯電防止剤、脂肪酸エステル、ポリエチレンオキサイド等

のノニオン系帯電防止剤が挙げられるが、これらに限定されるものではない。

【0130】

トナーが負電荷を有する場合、トナー受像層に配合される帯電調整剤としては、例えば、カチオンやノニオンが好ましい。

導電性金属酸化物としては、例えば、ZnOや、TiO₂、SnO₂、Al₂O₃、In₂O₃、SiO₂、MgO、BaO、MoO₃等を挙げることができる。これらの導電性金属酸化物は、単独で使用しても良く、これらの複合酸化物で使用しても良い。また、金属酸化物は、異種元素を更に含有させてもよく、例えば、ZnOに対して、Al、In等、TiO₂に対してNb、Ta等、SnO₂に対しては、Sb、Nb、ハロゲン元素等を含有（ドーピング）させることができる。

【0131】

（その他の添加剤）

本発明のトナー受像層に使用され得る材料には、出力画像の安定性改良、またトナー受像層自身の安定性改良のため各種添加剤を含めることができる。この目的のための添加剤としては、種々の公知の酸化防止剤、老化防止剤、劣化防止剤、オゾン劣化防止剤、紫外線吸収剤、金属錯体、光安定剤、防腐剤、防かび剤等が挙げられる。

【0132】

前記酸化防止剤としては、例えば、クロマン化合物、クマラン化合物、フェノール化合物（例、ヒンダードフェノール）、ハイドロキノン誘導体、ヒンダードアミン誘導体、スピロインダン化合物が挙げられる。なお、酸化防止剤については、特開昭61-159644号公報などに記載されている。

【0133】

前記老化防止剤としては、例えば、「便覧 ゴム・プラスチック配合薬品 改訂第2版」（1993年、ラバーダイジェスト社）p76～121に記載のものが挙げられる。

【0134】

前記紫外線吸収剤としては、例えば、ベンゾトリアゾール化合物（米国特許3

533794号明細書記載)、4-チアゾリドン化合物(米国特許3352681号明細書記載)、ベンゾフェノン化合物(特開昭46-2784号公報記載)及び紫外線吸収ポリマー(特開昭62-260152号公報記載)が挙げられる。

【0135】

前記金属錯体としては、例えば、米国特許4241155号、同4245018号、同4254195号の各明細書、特開昭61-88256号、同62-174741号、同63-199248号、特開平1-75568号、同1-74272号の各公報に記載されているものが適当である。

また、「便覧 ゴム・プラスチック配合薬品 改訂第2版」(1993年、ラバーダイジェスト社) p122~137に記載の紫外線吸収剤、光安定剤も好ましく用いられる。

【0136】

本発明のトナー受像層に使用され得る材料には、上述したように公知の写真用添加剤を添加することができる。写真用添加剤としては、例えば、リサーチ・ディスクロージャー誌(以下、RDと略記する) No.17643(1978年1月)、同No. 18716(1979年11月)及び同No. 307105(1989年11月)に記載されており、その該当箇所を下記にまとめて示す。

添加剤の種類	RD17643	RD18716	RD307105
1. 増白剤	24頁	648 頁右欄	868 頁
2. 安定剤	24頁~25頁	649 頁右欄	868~870 頁
3. 光吸收剤 (紫外線吸収剤)	25頁~26頁	649 頁右欄	873 頁
4. 色素画像安定剤	25頁	650 頁右欄	872 頁
5. 硬膜剤	26頁	651 頁左欄	874~875 頁
6. バインダー	26頁	651 頁左欄	873~874 頁
7. 可塑剤、潤滑剤	27頁	650 頁右欄	876 頁
8. 塗布助剤	26頁~27頁	650 頁右欄	875~876 頁

(界面活性剤)

9. スタチック防止剤	27頁	650 頁右欄	876~877 頁
10. マット剤			878~879 頁

【0137】

本発明のトナー受像層は、前記支持体上に、トナー受像層に用いられるポリマーを含有する塗工液をワイヤーコーター等で塗布し、乾燥することによって設けられる。塗工液は、例えば、熱可塑性ポリマー、可塑剤等の添加剤を、アルコール及びケトン等の有機溶剤に溶解し、或いは均一に分散して調製される。ここで使用される有機溶剤としては、例えば、メタノール、イソプロピルアルコール及びメチルエチルケトン等が挙げられる。トナー受像層に用いるポリマーが水溶性であれば、上記支持体上にポリマー水溶液を塗布することによってトナー受像層を調製できる。また、水溶性でないポリマーについては、水分散液で支持体上に塗布することも可能である。

本発明で使用される前記ポリマーの成膜温度は、プリント前の保存に対しては、室温以上が好ましく、トナー粒子の定着に対しては100℃以下が好ましい。

【0138】

〔トナー受像層の諸物性〕

前記トナー受像層は、定着部材との定着温度における180度剥離強さが、0.1N／25mm以下、更に好ましくは、0.041N／25mm以下であることが適当である。180度剥離強さは、定着部材の表面素材を用い、JIS K 6887に記載の方法に準拠して測定することができる。

前記トナー受像層は、白色度が高いのが好ましい。該白色度としては、JIS P 8123に規定される方法で測定して、85%以上が好ましい。また、440nm～640nmの波長域で、分光反射率が85%以上、かつ同波長域の最大分光反射率と最低分光反射率の差が5%以内が好ましい。更には、400nm～700nmの波長域で分光反射率が85%以上、かつ同波長域の最大分光反射率と最低分光反射率の差が5%以内がより好ましい。

また、前記白色度としては、具体的には、CIE 1976 (L*a*b*)色空間において、L*値が80以上であるのが好ましく、85以上であるのが好

ましく、90以上であるのがより好ましい。また、白色の色味はできるだけニュートラルであるのが好ましい。白色色味としては、 $L^* a^* b^*$ 空間において、 $(a^*)^2 + (b^*)^2$ の値が50以下であるのが好ましく、18以下であるのがより好ましく、5以下であるのが更に好ましい。

【0139】

前記トナー受像層としては、光沢性が高いのが好ましい。光沢度としては、トナーが無い白色から最大濃度の黒色までの全領域において、45度光沢度が60以上であるのが好ましく、75以上であるのがより好ましく、90以上であるのが更に好ましい。

但し、光沢度は110以下であることが好ましい。110を超えると金属光沢のようになり画質として好ましくない。

尚、前記光沢度は、JIS Z 8741に基づいて測定することができる。

【0140】

前記トナー受像層は、平滑性が高いのが好ましい。該平滑度としては、トナーが無い白色から最大濃度の黒色までの全領域において、算術平均粗さ（Ra）が $3 \mu m$ 以下であるのが好ましく、 $1 \mu m$ 以下であるのがより好ましく、 $0.5 \mu m$ 以下であるのが更に好ましい。

尚、算術平均粗さは、JIS B 0601、B 0651、B 0652に基づいて測定することができる。

【0141】

前記トナー受像層は、以下の項目の内の1項目の物性を有することが好ましく、更に好ましくは、複数の項目、最も好ましくは、全ての項目の物性を有することが適当である。

(1) トナー受像層のTm（溶融温度）が30℃以上、トナーのTm+20℃以下である。

(2) トナー受像層の粘度が $1 \times 10^5 CP$ になる温度が、40℃以上、トナーのそれより低い。

(3) トナー受像層の定着温度における貯蔵弾性率（G'）が、 $1 \times 10^2 \sim 1 \times 10^5 Pa$ 、損失弾性率（G''）が、 $1 \times 10^2 \sim 1 \times 10^5 Pa$ である。

(4) トナー受像層の定着温度における損失弾性率（G”）と、貯蔵弾性率（G'）との比である損失正接（G”／G'）が、0.01～1.0である。

(5) トナー受像層の定着温度における貯蔵弾性率（G'）が、トナーの定着温度における貯蔵弾性率（G”）に対して、-50～+2500である。

(6) 溶融トナーのトナー受像層上の傾斜角が、50度以下、特に40度以下である。

また、トナー受像層としては、特許第2788358号明細書、特開平7-248637号公報、同8-305067号公報、同10-239889号公報等に開示されている物性等を満足するものが好ましい。

【0142】

前記(1)の物性は、示差走査熱量測定装置（DSC）により測定することができる。前記(2)～(3)の物性は、例えば、島津製作所製フローテスターCFT-500又は500Dを用いて測定することができる。前記(5)～(7)の物性は、回転型レオメーター（例えば、レオメトリック社製ダイナミックアナライザーRADII）を用いて測定することができる。前記(8)の物性は、協和界面科学（株）製の接触角測定装置を用い、特開平8-334916号公報に開示した方法で測定することができる。

【0143】

[その他の層]

前記その他の層としては、例えば、表面保護層、バック層、中間層、密着改良層、下塗り層、クッション層、帯電調節（防止）層、反射層、色味調製層、保存性改良層、接着防止層、アンチカール層、及び、平滑化層等が挙げられる。これらの層は、単層構成であってもよく、2以上の層より構成されていてもよい。

【0144】

—表面保護層—

前記表面保護層は、本発明の電子写真用受像シートにおける表面の保護、保存性の改良、取り扱い性の改良、筆記性の付与、機器通過性の改良、アンチオフセット性の付与等の目的で、前記トナー受像層の表面に設けることができる。該表面保護層は、1層であってもよいし、2層以上の層からなっていてもよい。表面

保護層には、バインダーとして各種の熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂等を用いることができ、前記トナー受像層と同種の樹脂を用いるのが好ましい。但し、熱力学的特性や、静電特性等は、トナー受像層と同じである必要はなく、各々最適化することができる。

【0145】

前記表面保護層には、トナー受像層に使用可能な、前述の各種の添加剤を配合することができる。特に、前記表面保護層には、本発明で使用する離型剤と共に、他の添加剤、例えば、マット剤等を配合することができる。なお、前記マット剤としては、種々の公知のものが挙げられる。

本発明の電子写真用受像シートにおける最表面層（例えば、表面保護層が形成されている場合には、表面保護層等）としては、定着性の点で、トナーとの相溶性が良いのが好ましい。具体的には、溶融したトナーとの接触角が、例えば0～40度であることが好ましい。

【0146】

—バック層—

前記バック層は、本発明の電子写真用受像シートにおいて、裏面出力適性付与、裏面出力画質改良、カールバランス改良、機器通過性改良等の目的で、支持体に対して、トナー受像層の反対側に設けられるのが好ましい。

前記バック層の色としては、特に制限はないが、本発明の電子写真用受像シートが、裏面にも画像を形成する両面出力型受像紙の場合、バック層も白色であることが好ましい。白色度及び分光反射率は、表面と同様に85%以上が好ましい。

また、両面出力適性改良のため、バック層の構成がトナー受像層側と同様であってもよい。バック層には、上記で説明した各種の添加剤を用いることができる。このような添加剤として、特にマット剤や、帯電調整剤等を配合することが適当である。バック層は、単層構成であってもよく、2層以上の積層構成であってもよい。

また、定着時のオフセット防止のため、定着ローラ等に離型性オイルを用いている場合、バック層は、オイル吸収性としてもよい。

【0147】

－密着改良層等－

前記密着改良層は、本発明の電子写真用受像シートにおいて、支持体及びトナー受像層の密着性を改良する目的で、形成するのが好ましい。密着改良層には、前述の各種の添加剤を配合することができ、特に架橋剤を配合するのが好ましい。また、本発明の電子写真用受像シートには、トナーの受容性を改良するため、該密着改良層及びトナー受像層の間に、更にクッション層等を設けるのが好ましい。

【0148】

－中間層－

前記中間層は、例えば、支持体及び密着改良層の間、密着改良層及びクッション層の間、クッション層及びトナー受像層の間、トナー受像層及び保存性改良層との間等に形成することができる。もちろん、支持体、トナー受像層、及び、中間層からなる電子写真用受像シートの場合には、中間層は、例えば、支持体及びトナー受像層の間に存在させることができる。

【0149】

なお、本発明の前記電子写真用受像シートの厚みとしては、特に制限はなく、目的に応じて適宜選定することができるが、例えば、 $50 \sim 350 \mu\text{m}$ が好ましく、 $100 \sim 280 \mu\text{m}$ がより好ましい。

【0150】

<<トナー>>

本発明の電子写真用受像シートは、印刷又は複写の際に、トナー受像層にトナーを受容させて使用される。

前記トナーは、結着樹脂と着色剤とを少なくとも含有し、必要に応じて離型剤、その他の成分を含有する。

【0151】

－トナー 結着樹脂－

前記結着樹脂としては、スチレン、パラクロルスチレンなどのスチレン類；ビニルナフタレン、塩化ビニル、臭化ビニル、弗化ビニル、酢酸ビニル、プロピオ

ン酸ビニル、ベンゾエ酸ビニル、酪酸ビニルなどのビニルエステル類；アクリル酸メチル、アクリル酸エチル、アクリル酸n-ブチル、アクリル酸イソブチル、アクリル酸ドデシル、アクリル酸n-オクチル、アクリル酸2-クロルエチル、アクリル酸フェニル、 α -クロルアクリル酸メチル、メタクリル酸メチル、メタクリル酸エチル、メタクリル酸ブチルなどのメチレン脂肪族カルボン酸エステル類；アクリロニトリル、メタクリルロニトリル、アクリルアミドなどのビニルニトリル類；ビニルメチルエーテル、ビニルエチルエーテル、ビニルイソブチルエーテルなどのビニルエーテル類；N-ビニルピロール、N-ビニルカルバゾール、N-ビニルインドール、N-ビニルピロリドンなどのN-ビニル化合物類；メタクリル酸、アクリル酸、桂皮酸などのビニルカルボン酸類などビニル系モノマーの単独重合体やその共重合体、更には各種ポリエステル類を使用することができ、各種ワックス類を併用することも可能である。

これらの樹脂の中で、特に本発明のトナー受像層に用いたものと同一系統の樹脂を用いるのが好ましい。

【0152】

—トナー 着色剤—

前記着色剤としては、通常トナーに用いられているものを制限なく使用することができ、例えば、カーボンブラック、クロムイエロー、ハンザイエロー、ベンジジンイエロー、スレンイエロー、キノリンイエロー、パーメントオレンジGTR、ピラゾロンオレンジ、バルカンオレンジ、ウォッチャングレッド、パーマネントレッド、ブリリアンカーミン3B、ブリリアンカーミン6B、デイポンオイルレッド、ピラゾロンレッド、リソールレッド、ローダミンBレーキ、レーキレッドC、ローズベンガル、アニリンブルー、ウルトラマリンブルー、カルコオイルブルー、メチレンブルークロライド、フタロシアニンブルー、フタロシアニングリーン、マラカイトグリーンオクサレートなどの種々の顔料が挙げられる。また、アクリジン系、キサンテン系、アゾ系、ベンゾキノン系、アジン系、アントラキノン系、チオインジコ系、ジオキサジン系、チアジン系、アゾメチン系、インジコ系、チオインジコ系、フタロシアニン系、アニリンブラック系、ポリメチン系、トリフェニルメタン系、ジフェニルメタン系、チアジン系、チアゾー

ル系、キサンテン系などの各種染料などが挙げられる。これら着色剤は1種単独で使用してもよいし、複数種類を併せて使用してもよい。

着色剤の含有量は、2～8質量%の範囲が好ましい。着色剤の含有量が2質量%以上であれば着色力が弱くなることもなく、一方、8質量%以下であれば、透明性が損なわれることもないで好ましい。

【0153】

—トナー 離型剤—

前記離型剤としては、原理的には、公知のワックス全てが使用可能であるが、比較的低分子量の高結晶性ポリエチレンワックス、フィッシャートロプシュワックス、アミドワックス、ウレタン化合物など窒素を含有する極性ワックスなどが特に有効である。ポリエチレンワックスについては分子量が1000以下のものが特に有効であり、300～1000の範囲がより好ましい。

【0154】

前記ウレタン結合を有する化合物は、低分子量であっても極性基による凝集力の強さにより、固体状態を保ち、融点も分子量のわりには高く設定できるので好適である。分子量の好ましい範囲は300～1000である。原料は、ジイソシアニ酸化合物類とモノアルコール類との組み合わせ、モノイソシアニ酸とモノアルコールとの組み合わせ、ジアルコール類とモノイソシアニ酸との組み合わせ、トリアルコール類とモノイソシアニ酸との組み合わせ、トリイソシアニ酸化合物類とモノアルコール類との組み合わせなど、種々の組み合わせを選択することができが、高分子量化させないために、多官能基と单官能基の化合物を組み合わせることが好ましく、また等価の官能基量となるようにすることが重要である。

【0155】

具体的な、原料化合物のうちモノイソシアニ酸化合物としては、例えば、イソシアニ酸ドデシル、イソシアニ酸フェニル及びその誘導体、イソシアニ酸ナフチル、イソシアニ酸ヘキシル、イソシアニ酸ベンジル、イソシアニ酸ブチル、イソシアニ酸アリルなどが挙げられる。

ジイソシアニ酸化合物としては、ジイソシアニ酸トリレン、ジイソシアニ酸4、4'ジフェニルメタン、ジイソシアニ酸トルエン、ジイソシアニ酸1、3-フ

エニレン、ジイソシアノ酸ヘキサメチレン、ジイソシアノ酸4-メチル-m-フエニレン、ジイソシアノ酸イソホロンなどが挙げられる。

モノアルコールとしては、メタノール、エタノール、プロパノール、ブタノール、ペンタノール、ヘキサノール、ヘプタノールなど極く一般的なアルコール類を使用することが可能である。

原料化合物のうちジアルコール類としては、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、トリメチレングリコールなど多数のグリコール類；トリアルコール類としては、トリメチロールプロパン、トリエチロールプロパン、トリメタノールエタンなどが使用可能であるが、必ずしもこの範囲に限定されない。

【0156】

これらのウレタン化合物類は、通常の離型剤のように、混練時に樹脂や着色剤とともに混合して、混練粉碎型トナーとしても使用できる。また、前記の乳化重合凝集溶融法トナーに用いる場合には、水中にイオン性界面活性剤や高分子酸や高分子塩基などの高分子電解質とともに分散し、融点以上に加熱してホモジナイザーや圧力吐出型分散機で強い剪断をかけて微粒子化し、1μm以下の離型剤粒子分散液を調製し、樹脂粒子分散液、着色剤分散液などとともに用いることができる。

【0157】

—トナー その他の成分—

また、本発明のトナーには、内添剤、帶電制御剤、無機微粒子等のその他の成分を配合することができる。内添剤としては、フェライト、マグネタイト、還元鉄、コバルト、ニッケル、マンガン等の金属、合金、又はこれら金属を含む化合物などの磁性体を使用することができる。

【0158】

前記帶電制御剤としては、4級アンモニウム塩化合物、ニグロシン系化合物、アルミや、鉄、クロムなどの錯体からなる染料、トリフェニルメタン系顔料など通常使用される種々の帶電制御剤を使用することができる。なお、凝集、溶融時の安定性に影響するイオン強度の制御や、廃水汚染を減少する観点から水に溶解

しにくい材料が好ましい。

【0159】

前記無機微粒子としては、シリカ、アルミナ、チタニア、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、リン酸三カルシウムなど、通常、トナー表面の外添剤を全て使用で、それらをイオン性界面活性剤や高分子酸、高分子塩基で分散して使用することが好ましい。

【0160】

更に、乳化重合、シード重合、顔料分散、樹脂粒子分散、離型剤分散、凝集、更には、それらの安定化などに界面活性剤を用いることができる。例えば、硫酸エステル塩系、スルホン酸塩系、リン酸エステル系、せっけん系等のアニオン界面活性剤、アミン塩型、4級アンモニウム塩型等のカチオン系界面活性剤、また、ポリエチレングリコール系、アルキルフェノールエチレンオキサイド付加物系、多価アルコール系等の非イオン性界面活性剤を併用することも効果的である。その際の分散手段としては、回転せん断型ホモジナイザーやメディアを有するボールミル、サンドミル、ダイノミルなどの一般的なものが使用可能である。

【0161】

なお、前記トナーには、必要に応じて更に外添剤を添加してもよい。前記外添剤としては、無機粉末及び有機粒子等が挙げられる。前記無機粒子としては、 SiO_2 、 TiO_2 、 Al_2O_3 、 CuO 、 ZnO 、 SnO_2 、 Fe_2O_3 、 MgO 、 BaO 、 CaO 、 K_2O 、 Na_2O 、 ZrO_2 、 $\text{CaO} \cdot \text{SiO}_2$ 、 $\text{K}_2\text{O} \cdot (\text{TiO}_2)_n$ 、 $\text{Al}_2\text{O}_3 \cdot 2\text{SiO}_2$ 、 CaCO_3 、 MgCO_3 、 BaSO_4 、 MgSO_4 等を例示することができる。また、前記有機粒子としては、脂肪酸又はその誘導体や、これ等の金属塩等の粉末、フッ素系樹脂、ポリエチレン樹脂、アクリル樹脂等の樹脂粉末を用いることができる。これらの粉末の平均粒径は、例えば、 $0.01 \sim 5 \mu\text{m}$ 、好ましくは、 $0.1 \sim 2 \mu\text{m}$ であることが適当である。

【0162】

前記トナーの製造方法は、特に制限されないが、(i)樹脂粒子を分散させるための分散液中で凝集粒子を形成し凝集粒子分散液を調製する工程、(ii)前記

凝集粒子分散液中に、微粒子を分散させてなる微粒子分散液を添加混合して前記凝集粒子に前記微粒子を付着させて付着粒子を形成する工程、及び（i i i）前記付着粒子を加熱し融合してトナー粒子を形成する工程、とを含むトナーの製造方法により製造することが好ましい。

【0163】

－トナー物性等－

本発明のトナーの体積平均粒子径は0.5μm以上10μm以下が好ましい。

前記トナーの体積平均粒子径が小さすぎると、トナーのハンドリング（補給性、クリーニング性、流動性等）に悪影響が生じる場合があり、また、粒子生産性が低下する場合がある。一方、トナーの体積平均粒子径が大きすぎると、粒状性、転写性に起因する画質、解像度に悪影響を与える場合がある。

また、本発明のトナーは、前記トナーの体積平均粒子径範囲を満たし、かつ体積平均粒度分布指数（GSDv）が1.3以下であることが好ましい。

前記体積平均粒度分布指数（GSDv）と数平均粒度分布指数（GSDn）との比（GSDv/GSDn）は少なくとも0.95が好ましい。

また、本発明のトナーは、前記トナーの体積平均粒子径範囲を満たし、かつ下記式で表される形状係数の平均値が1.00～1.50が好ましい。

$$\text{形状係数} = (\pi \times L^2) / (4 \times S)$$

(但し、Lはトナー粒子の最大長、Sはトナー粒子の投影面積を示す。)

トナーが上記条件を満たす場合には、画質、特に、粒状性、解像度に効果があり、また、転写に伴う抜けやブラーが生じにくく、平均粒径が小さくなくてもハンドリング性に悪影響が出にくくなる。

【0164】

なお、トナー自体の150℃における貯蔵弾性率G'（角周波数10rad/secで測定）は、10～200Paであることが、定着工程での画質向上とオフセット性の防止の面から適当である。

【0165】

【実施例】

以下、実施例及び比較例により本発明を詳細に説明するが、本発明は、下記実

施例に何ら限定されるものではない。なお、以下の実施例及び比較例において、「%」及び「部」は、質量基準である。

【0166】

－支持体の調製－

広葉樹晒クラフトパルプ（L B K P）をディスクリファイナーで300cc（カナダ標準ろ水度、C. F. S.）まで叩解し、纖維長0.58mmに調整した。このパルプ紙料に対して、パルプの質量に基づいて、以下の割合で添加剤を添加した。

添加剤の種類	量 (%)
カチオン澱粉	1.2
アルキルケテンダイマー（AKD）	0.5
アニオンポリアクリルアミド	0.3
エポキシ化脂肪酸アミド（EFA）	0.2
ポリアミドポリアミンエピクロルヒドリン	0.3

注) AKDは、アルキルケテンダイマー（アルキル部分は、ベヘン酸を主体とする脂肪酸に由来する）を意味し、EFAは、エポキシ化脂肪酸アミド（脂肪酸部分は、ベヘン酸を主体とする脂肪酸に由来する）を意味する。

【0167】

得られたパルプ紙料を、長網抄紙機により坪量150g/m²の原紙を作製した。なお、長網抄紙機の乾燥ゾーンの中間でサイズプレス装置により、PVA 1.0g/m²、CaCl₂ 0.8g/m²を付着した。

抄紙工程の最後で、ソフトカレンダーを用いて、密度を1.01g/cm³に調整した。得られた原紙において、トナー受像層が設けられる側において、金属ロールが接するように通紙した。金属ロールの表面温度は140℃であった。得られた原紙の白色度は91%、王研式平滑度は265秒、ステキヒト・サイズ度は127秒であった。

【0168】

得られた原紙を、出力17kWのコロナ放電によって処理した後、裏面に表面マット粗さ10μmのクーリングロールを用い、下記表1に示した組成のポリエ

チレン樹脂を溶融吐出膜温度320℃、ラインスピード250m／分で单層押出ラミネートし、厚さ22μmのポリエチレン樹脂層を設けた。

【0169】

【表1】

組成物	MFR(g／10分)	密度(g／cm ³)	添加量(質量%)
HDPE	12	0.967	70
LDPE	3.5	0.923	30

【0170】

次に、トナー受像層を塗設する側である原紙の表面に表面マット粗さ0.7μmのクーリングロールを用い、表1と同じLDPEと、TiO₂を表2に示したようにマスター バッチ化したペレット及び群青を5%含むマスター バッチ化したペレットを最終組成が表3に示したように混合したものを、ラインスピード250m／分で单層押出ラミネートして厚さ29μmのトナー受像層を設けた。その後、表面に18kW、裏面に12kWのコロナ放電処理を施した後、表面にはゼラチン下塗り層を設け、支持体を作製した。

【0171】

【表2】

組成物	含有量(質量%)
LDPE($\rho = 0.921\text{g/cm}^3$)	37.98
アナターゼ型二酸化チタン	60
ステアリン酸亜鉛	2
酸化防止剤	0.02

【0172】

【表3】

組成物	添加量(質量%)
LDPE($\rho = 0.921\text{g/cm}^3$)	67.7
アナターゼ型二酸化チタン	30
ステアリン酸亜鉛	2
群青	0.3

【0173】

得られた支持体の表面上に、自己分散型ポリエステル樹脂水分散物、カルナバワックス水分散物、二酸化チタンのPVA分散物、及び分子量約10万のポリエチレンオキサイドを、最終的に表4の塗設量組成になるようにして、トナー受像層をバーコーターで設け、電子写真用受像シートを作製した。なお、塗布液の粘度は70mPa・s、表面張力30mN/m、pH7.8であった。

得られた電子写真用受像シートの表面の白色度は87、不透明度は93、光沢度は45（20度）であり、一方、裏面の白色度は74、光沢度は3（20度）であった。

【0174】

【表4】

組成物	塗設量(g/m ²)
ポリエステル樹脂	11.0
カルナバワックス	1.2
アナターゼ型二酸化チタン	1.1
PVA-205	0.15
ポリエチレンオキサイド	2.9
アニオン界面活性剤	0.3

【0175】

次に、得られた電子写真用受像シートを、電子写真装置として、図4に示した富士ゼロックス製フルカラーレーザープリンター（DCC-400）の定着部を、図5に示したベルト定着機でベルト状定着部に改造した装置を用い、下記条件で定着処理を行った。

【0176】

—ベルト—

ベルトの支持体：ポリイミド（PI）フィルム、幅=32cm

厚み=80μm

ベルトの離型層素材：SIFEL（フルオロカーボンシロキサンゴム前駆体であるSIFEL610を加硫硬化したフルオロカーボン

シロキサンゴム)

膜厚 = 12 μm

—冷却工程—

冷却器：ヒートシンク長 = 120 mm

速度 : 53 mm / sec

【0177】

次に、図5に示したベルト定着処理機を用いて、上記同様に定着処理を実施し、電子写真受像シートが定着部に存在する状態で停止させ、ベルト上に汚れを発生させた。なお、定着ベルトの周長は58 cmであった。

【0178】

(実施例1)

実施例1では、通紙方向長さが70 cmのシート状の電子写真用受像シート（クリーニングシート）を通紙させて、クリーニングを実施した。ベルト上に異常が見られなくなるまでクリーニングをするのに必要なシート枚数は9枚であった。

【0179】

(実施例2)

実施例2では、ロール状の電子写真用受像シートを通紙させて、切断手段によりベルト長の約1.2倍の長さにカットし、クリーニングを実施したところ、1枚でほぼ問題なくなり、2枚でベルト上に異常が視認できなくなった。

【0180】

(比較例1)

比較例1では、通紙方向長さが29.7 cmのシート状の電子写真用受像シートを通紙させて、クリーニングを実施した。ベルト上に異常が見られなくなるまでクリーニングをするのに必要なシート枚数は9枚であった。

【0181】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、特にロール形態の電子写真用受像シートをクリーニングシートとして用いることにより、定着ローラ又は定着ベルトの

クリーニングを容易かつ確実に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

図1は、定着ローラの周長を説明するための図である。

【図 2】

図2は、定着ベルトの周長を説明するための図である。

【図 3】

図3は、出力に使用する電子写真用受像シートの通紙方向長さの種類を説明するための図である。

【図 4】

図4は、本発明の電子写真装置の一例を示す概略図である。

【図 5】

図5は、本発明の冷却剥離式のベルト定着型平滑化処理機の一例を示す概略図である。

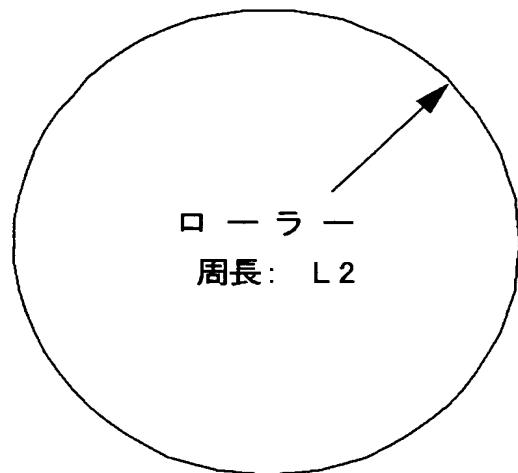
【符号の説明】

- | | |
|-------|--------------|
| 1 Y～K | 電子写真画像形成ユニット |
| 2 | 感光体ドラム |
| 3 | 帯電ローラ |
| 4 | 露光器 |
| 5 | 現像装置 |
| 6 | 一次転写ローラ |
| 7 | ドラムクリーニング装置 |
| 8 | 除電ローラ |
| 9 | 中間転写ベルト |
| 10 | 制御部 |
| 12 | 二次転写ローラ |
| 13 | バックアップローラ |
| 14 | ベルトクリーニング装置 |
| 16 | 搬送方向切替ゲート |

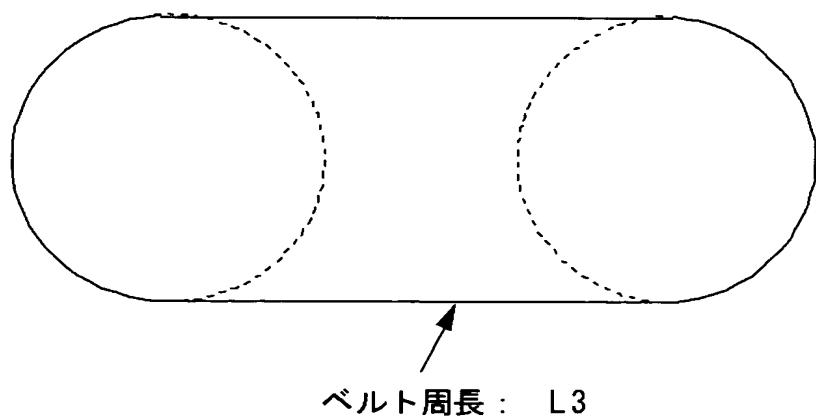
- 1 7 用紙トレイ
1 8 受像シート
2 1 第一記録媒体排出口
2 2 排出ローラ
2 4 搬送ローラ
2 6 排出トレイ
4 0 加熱定着ローラ
4 1 加熱源
4 2 加圧ローラ
4 4 張架ローラ
4 5 ステアリングローラ
4 6 冷却器
4 7 定着ベルト
4 8 排出ローラ
4 9 トナー
1 0 0 カラー複写機
1 0 1 定着装置
1 0 2 画像読取装置
1 0 4 装置本体

【書類名】 図面

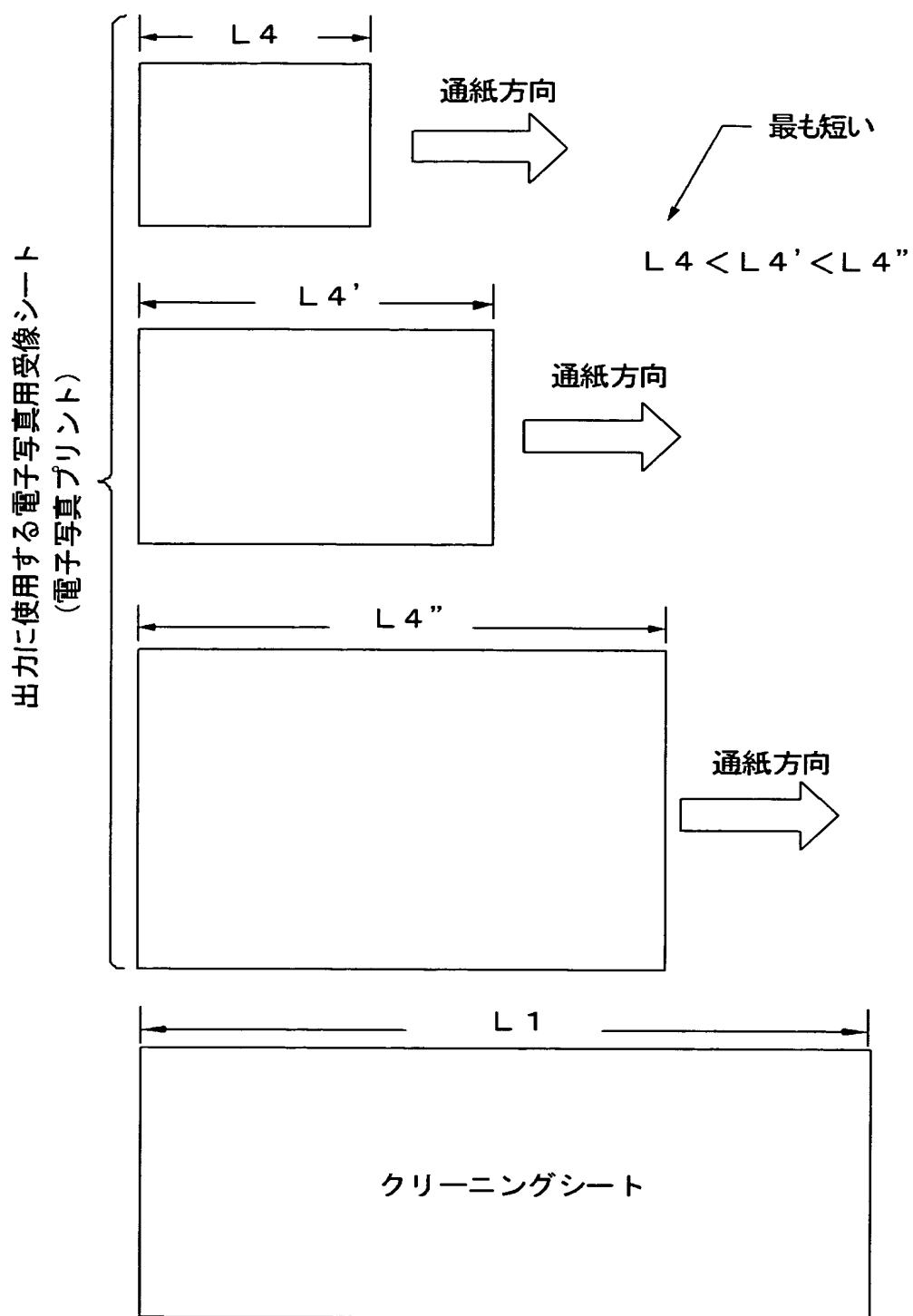
【図1】



【図2】

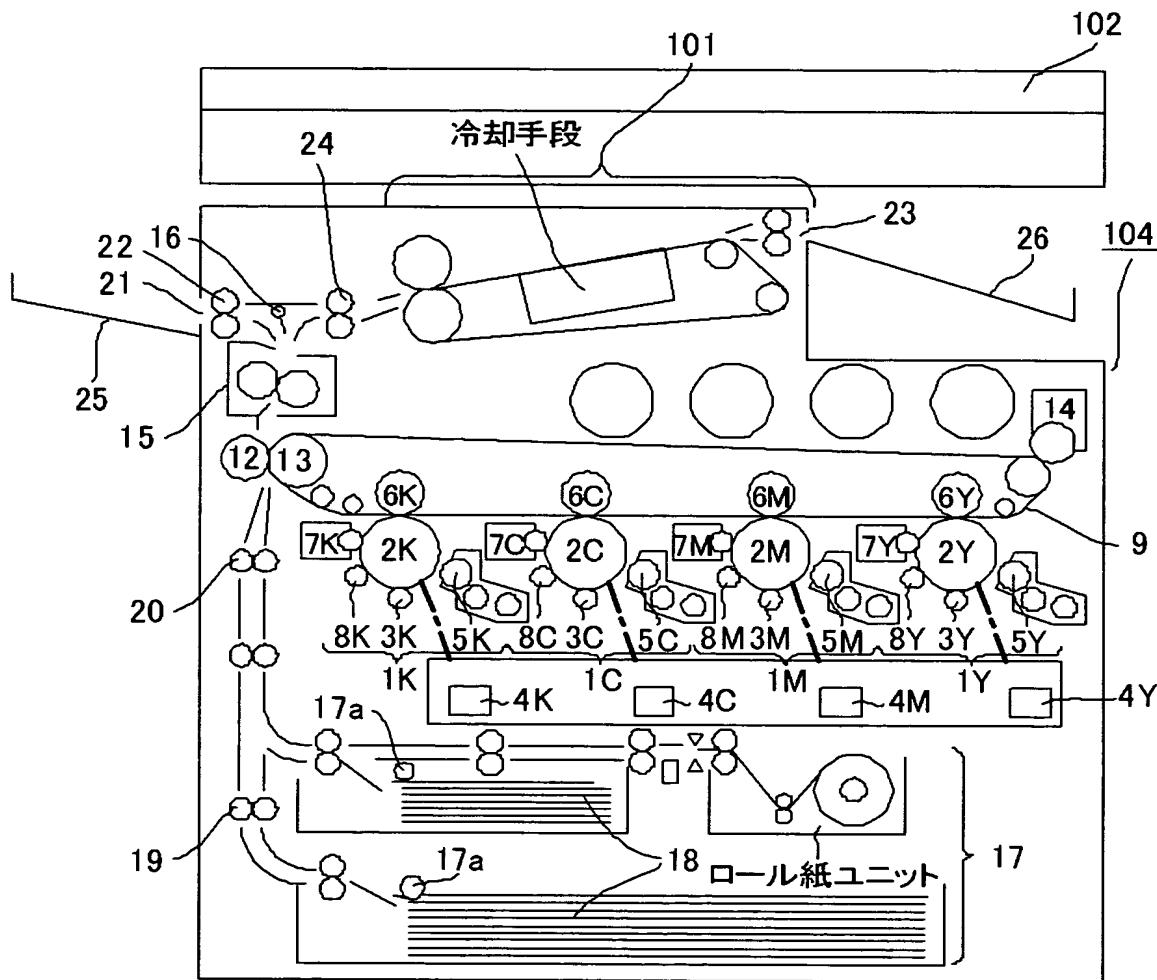


【図3】

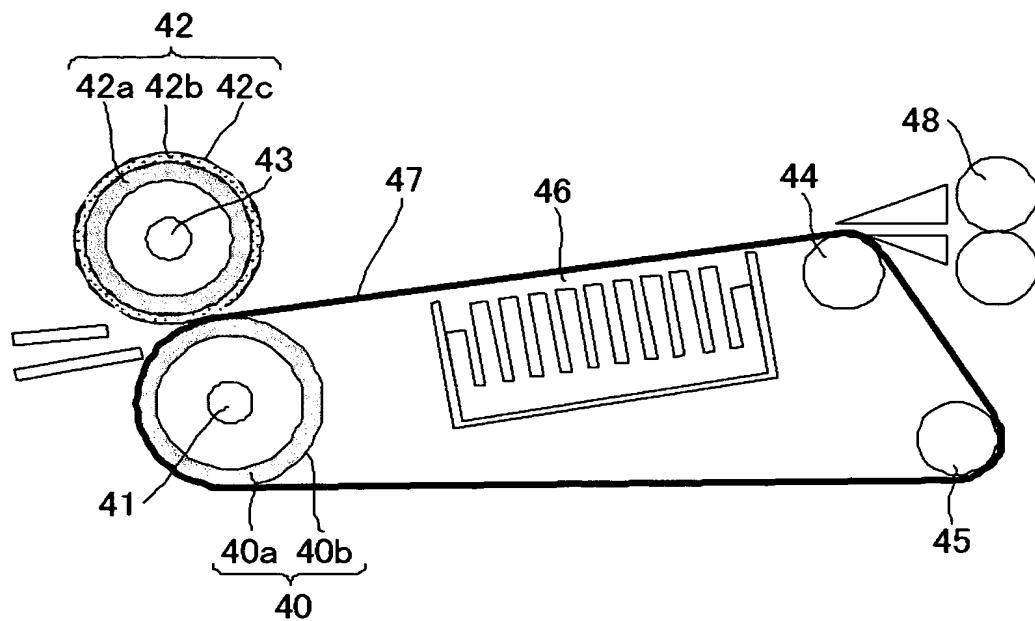


【図4】

100



【図5】

101

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 定着ローラ又は定着ベルトのクリーニングを容易かつ確実に行うことができる電子写真装置クリーニング方法及びそれに用いる電子写真画像形成装置の提供。

【解決手段】 電子写真用受像シートにトナーを定着処理する加熱加圧手段を備えた電子写真画像形成装置を用いる電子写真装置クリーニング方法において、前記電子写真用受像シートが、支持体上に熱可塑性樹脂を含有するトナー受像層を有すると共に、該電子写真用受像シートの通紙方向の長さ（L1）が、前記加熱加圧手段である定着ローラの周長（L2）又は定着ベルトの周長（L3）に比べて長い電子写真用受像シートをクリーニングシートとして用いる電子写真装置クリーニング方法である。

【選択図】 なし

【書類名】 手続補正書
【整理番号】 FF166-02P
【提出日】 平成14年12月 3日
【あて先】 特許庁長官殿
【事件の表示】
【出願番号】 特願2002-318077
【補正をする者】
【識別番号】 000005201
【氏名又は名称】 富士写真フィルム株式会社
【補正をする者】
【識別番号】 000005496
【氏名又は名称】 富士ゼロックス株式会社
【代理人】
【識別番号】 100107515
【弁理士】
【氏名又は名称】 廣田 浩一
【電話番号】 03-5304-1471

【手続補正 1】**【補正対象書類名】** 特許願**【補正対象項目名】** 発明者**【補正方法】** 変更**【補正の内容】****【発明者】****【住所又は居所】** 静岡県富士宮市大中里 200番地 富士写真フィルム株式会社内**【氏名】** 中村 善貞**【発明者】****【住所又は居所】** 神奈川県足柄上郡中井町境 430番地 グリーンテクなかい 富士ゼロックス株式会社内**【氏名】** 野上 豊**【発明者】****【住所又は居所】** 神奈川県足柄上郡中井町境 430番地 グリーンテクなかい 富士ゼロックス株式会社内**【氏名】** 大木 靖**【プルーフの要否】** 要

認定・付加情報

特許出願の番号 特願2002-318077
受付番号 50201831887
書類名 手続補正書
担当官 野本 治男 2427
作成日 平成15年 1月24日

<認定情報・付加情報>

【補正をする者】

【識別番号】 000005201
【住所又は居所】 神奈川県南足柄市中沼210番地
【氏名又は名称】 富士写真フィルム株式会社

【補正をする者】

【識別番号】 000005496
【住所又は居所】 東京都港区赤坂二丁目17番22号
【氏名又は名称】 富士ゼロックス株式会社

【代理人】

【識別番号】 100107515
【住所又は居所】 東京都渋谷区代々木1-19-12 新代々木ビル206 山の手合同国際特許事務所
【氏名又は名称】 廣田 浩一

次頁無

特願2002-318077

出願人履歴情報

識別番号 [000005201]

1. 変更年月日 1990年 8月14日

[変更理由] 新規登録

住 所 神奈川県南足柄市中沼210番地
氏 名 富士写真フィルム株式会社

特願2002-318077

出願人履歴情報

識別番号 [000005496]

1. 変更年月日 1996年 5月29日

[変更理由] 住所変更

住所 東京都港区赤坂二丁目17番22号
氏名 富士ゼロックス株式会社